

第4回 城原川未来づくり懇談会

平成19年1月11日(木)

1 . 第3回懇談会での主な意見

第3回懇談会での川づくりに関する主な意見

今後、城原川を一番使って欲しい子供たちの意見も取り入れた方が良くはないか。アンケートを取るのはいかがでしょうか。

今の子供たちの遊び方が変わったんじゃなくて、遊び方を知らないのではないかと思う。

子供たちの生活環境が変わってきているなかで、川の楽しさを教えるプログラムなどを行うことにより、子供たちは川に目を向けていくのではないか。

親の世代が川遊びを経験していない。そのようなことも踏まえているんなことをつかっていかないと難しいと思う。

第3回懇談会での川づくりに関する主な意見

川を利用するための安全面や治水面も考えつつ、生態系にも配慮しながら整備をすることが大事だと思う。

有明海沿岸の河川には、有明海特有の魚が生息しており、産卵場所、生活の場所を川と海で使い分けているような魚もいる。その移動が途切れないようなことが必要であり、コンクリートにしなくていい場所は、極力すき間があるような構造物を作る方が良い。

流域全体として、川の恵み、川のありがたみというものを考えていくべきではないか。今まで流れていたようにクリークに水を流すことも必要。

家の周りにあった昔ながらのクリークの水の循環は重要であり、環境面だけではなく、利水と治水の面でもクリークが大事な役割を持つのではないかと思う。

第3回懇談会での川づくりに関する主な意見

現在は利水と治水と分けて整備されている今後これらをどうやって一緒にやっていくかということは今から考えてなくてはいけない問題だと思う。

堤防の上は結構狭いので、できれば斜面の途中にでも歩行者専用道路があると良いのではないかと思う。またスロープや川の中を見ながら歩けるようなものがあったら良いと思う。

水辺の楽校下流に良いガタ土があった。このガタ土を是非上手に活用できたら良いと思う。

日本人は桜が好きであらゆる場所に桜が植えられているが、川本来の樹木を植えた方が良い。

第3回懇談会での川づくりに関する主な意見

よく氾濫する歴史を持つ旧千代田の水防団は良く訓練していると聞いている。このような訓練を水防団の方だけの訓練だけでなく、地域の人と一緒にした訓練をする必要があるのかなと思う。

城原川の整備が決まれば、避難はどのようにすればいいか、災害時の復興など自主防災組織でも考えることができるのでは。

城原川沿川には旧地域、新地域があり地域コミュニティに差がある。これを踏まえた上で地域防災などを考えていく必要がある。

2 . 地元説明会の開催結果

地元説明会の開催日時

12月12～22日にかけて、城原川沿川16地区で地元説明会を行いました。説明会では、「城原川かわづくりプラン（案）」及び「平成18年工事概要」について説明し、意見を聴取しました。

	開催日	地区名		開催日	地区名	
神崎市神埼町	12月18日	四丁目	神崎市千代田町	12月12日	黒津	
		協和町		12月12日	下直鳥	
		西小津ヶ里		12月13日	乙南里	
	12月18日	小津ヶ里			新宿	
	12月19日	永歌		12月14日	大石	
	12月19日	大門			嘉納	
	12月20日	本告牟田		丙太田		
		山田		12月14日	上直鳥	
	12月21日	猪面		12月20日	用作	
		利田			柴尾	
		川寄			小森田	
	12月21日	犬の目		参加者：292人		
	12月22日	鶴西				
12月22日	鶴田					
佐賀市	12月16日	蓮池				

地元説明会でのアンケート結果

地元説明会后、アンケート調査を実施し、286名（回答率97%）の回答が得られました。

< アンケート内容 >

属性

あなたにとって城原川のイメージは。

洪水対策に関すること

- ・洪水を経験したことがありますか。
- ・城原川は洪水に対して安全だと思えますか。

防災意識に関すること

- ・平成18年7月4日の雨による水位上昇について不安を感じましたか。
- ・大雨や洪水の時の避難の目安になる情報は何かと思えますか。

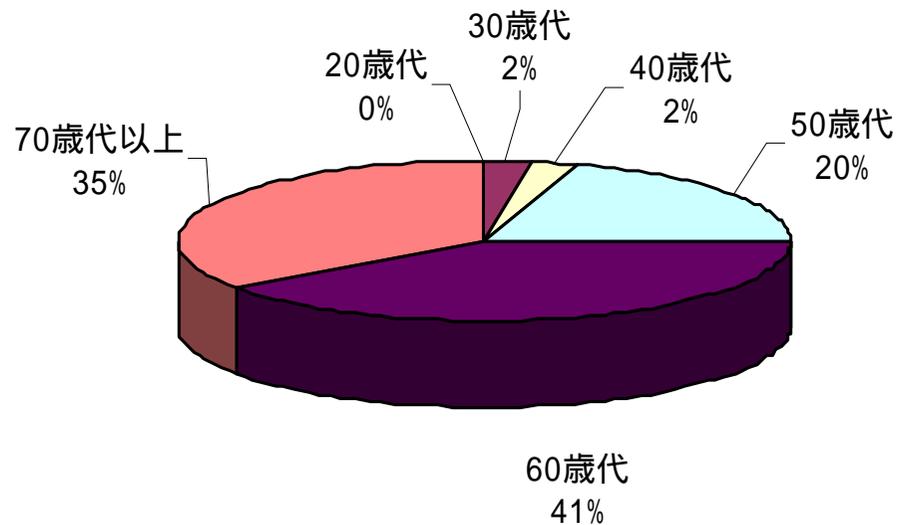
利用に関すること

- ・日頃どのような利用をしていますか。
- ・利用する上で整備して欲しいことを聞かせてください。
- ・これから城原川をどのように利用していきたいと思えますか。

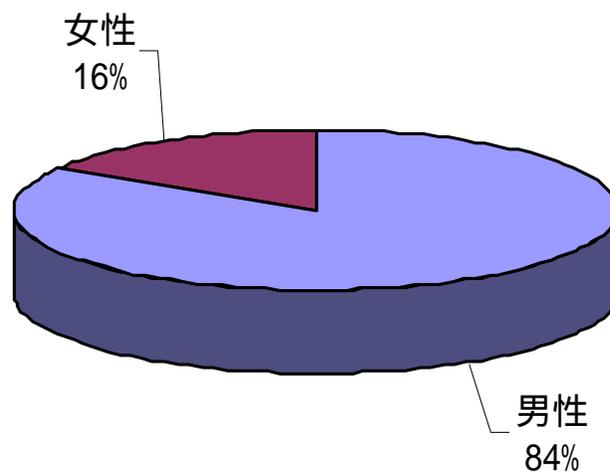
これからの城原川について望むこと

城原川に関するアンケート結果（報告）

1 - 1 . あなたの年齢をお聞かせください。

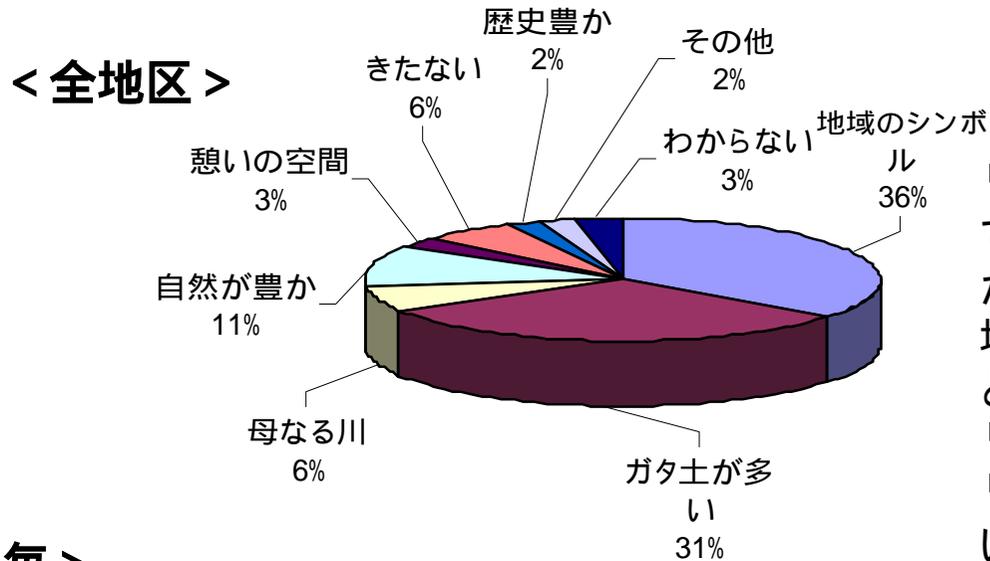


1 - 2 . あなたの性別をお聞かせください。



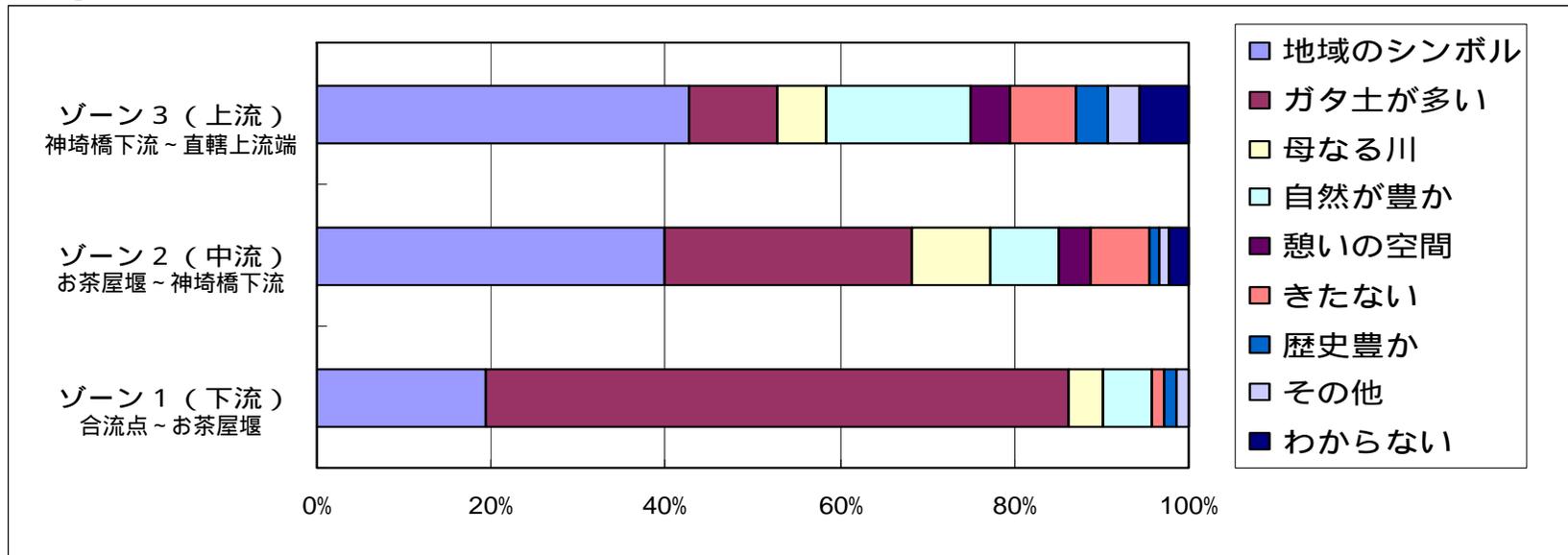
地元説明会でのアンケート結果

Q1 . あなたにとって城原川のイメージは？



「地域のシンボル」というイメージを持っている人が多く、城原川に対する関心が高い。
 地区別に見ると下流は「ガタ土が多い」と感じ、上流の方が下流より城原川は「自然豊か」「きたない」「憩いの空間」「地域のシンボル」というイメージが強い。

< 地区毎 >

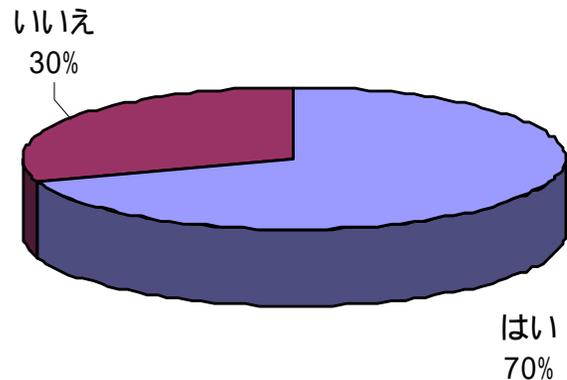


地元説明会でのアンケート結果

Q2 . 洪水対策に関すること

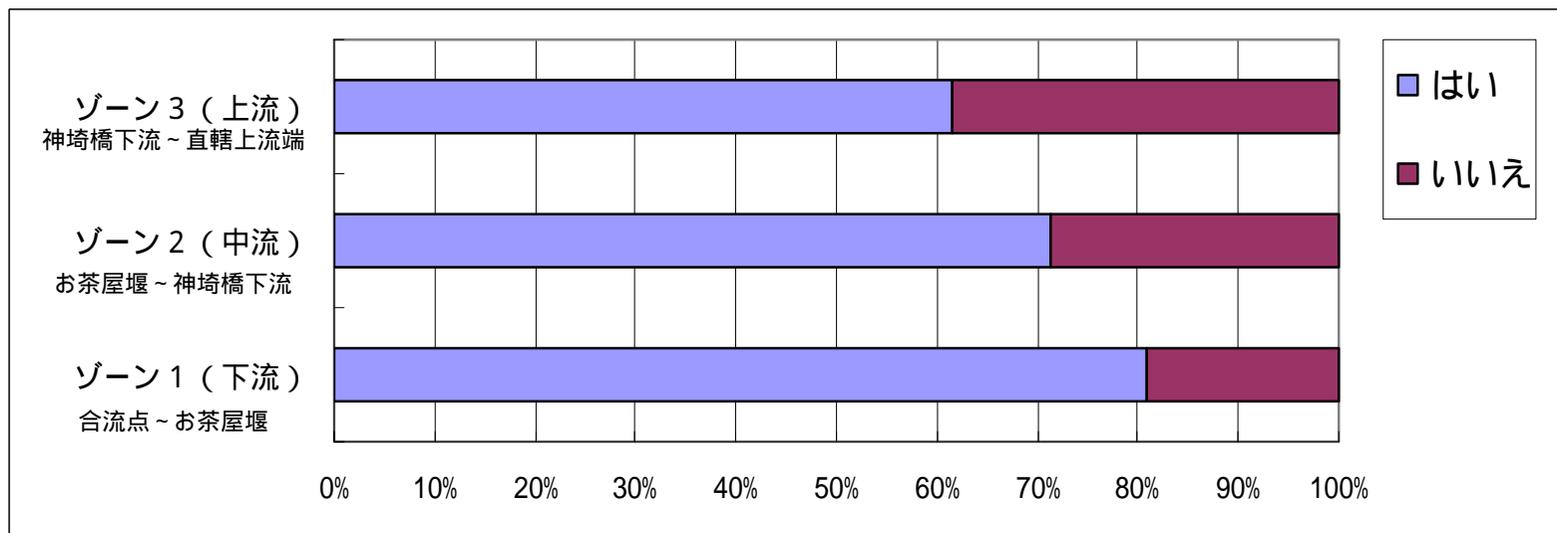
- ・あなたは洪水を経験したことがありますか？

<全地区>



地元説明会に参加した方の70%は洪水を経験している。上流より中下流の方が洪水経験者が多く参加していた。

<地区毎>

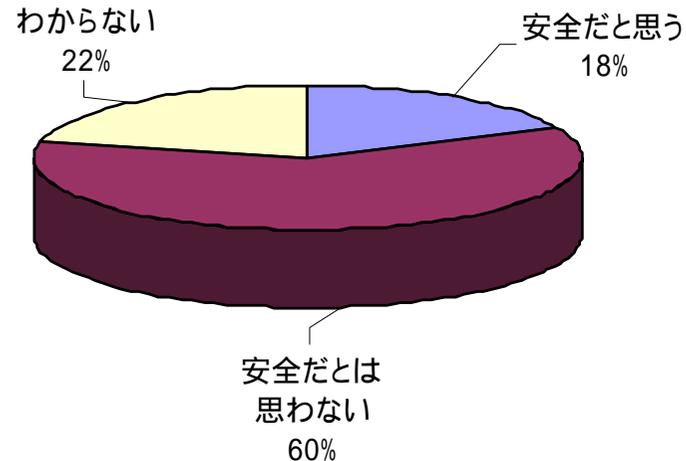


地元説明会でのアンケート結果

Q3 . 【洪水対策に関すること】

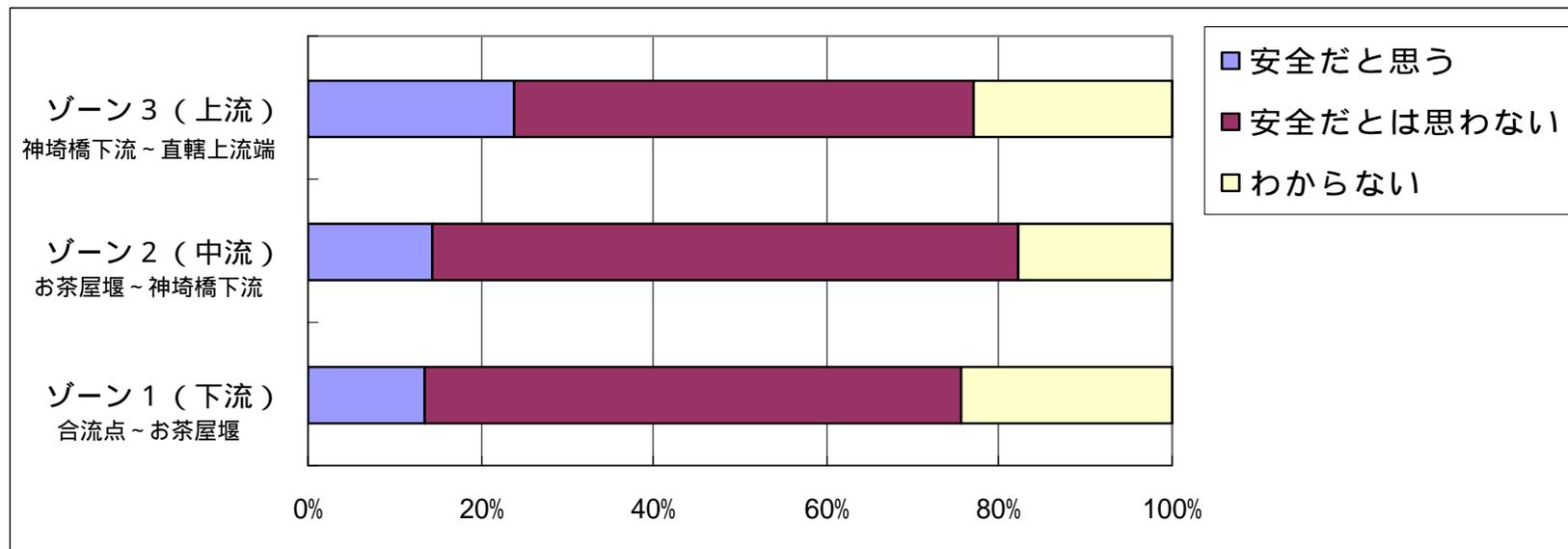
- ・ 城原川は洪水に対して安全だと思いますか？

< 全地区 >



「城原川は安全だと思わない」と答えた方が60%である。
しかし上流は「安全だと思う」と答えた方が、他の中下流に比べ10%程度多い。

< 地区毎 >

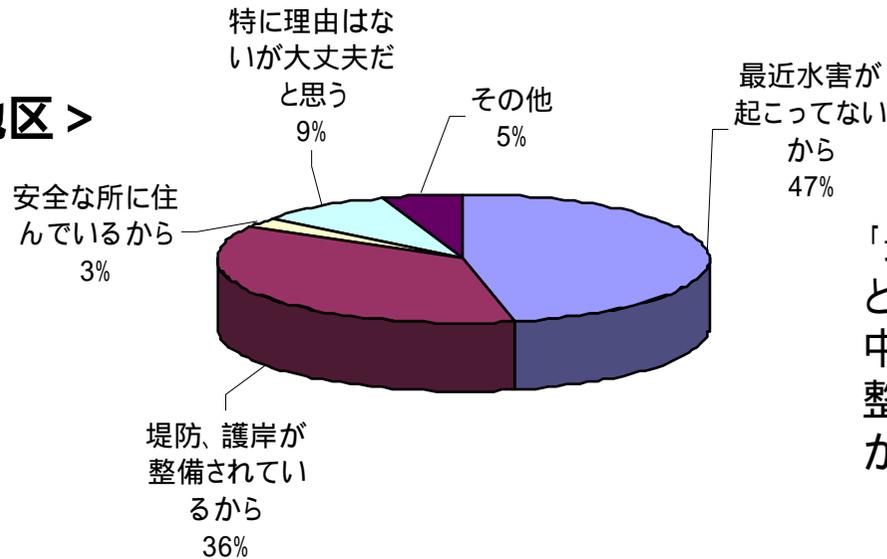


地元説明会でのアンケート結果

Q4 . 【洪水対策に関すること】

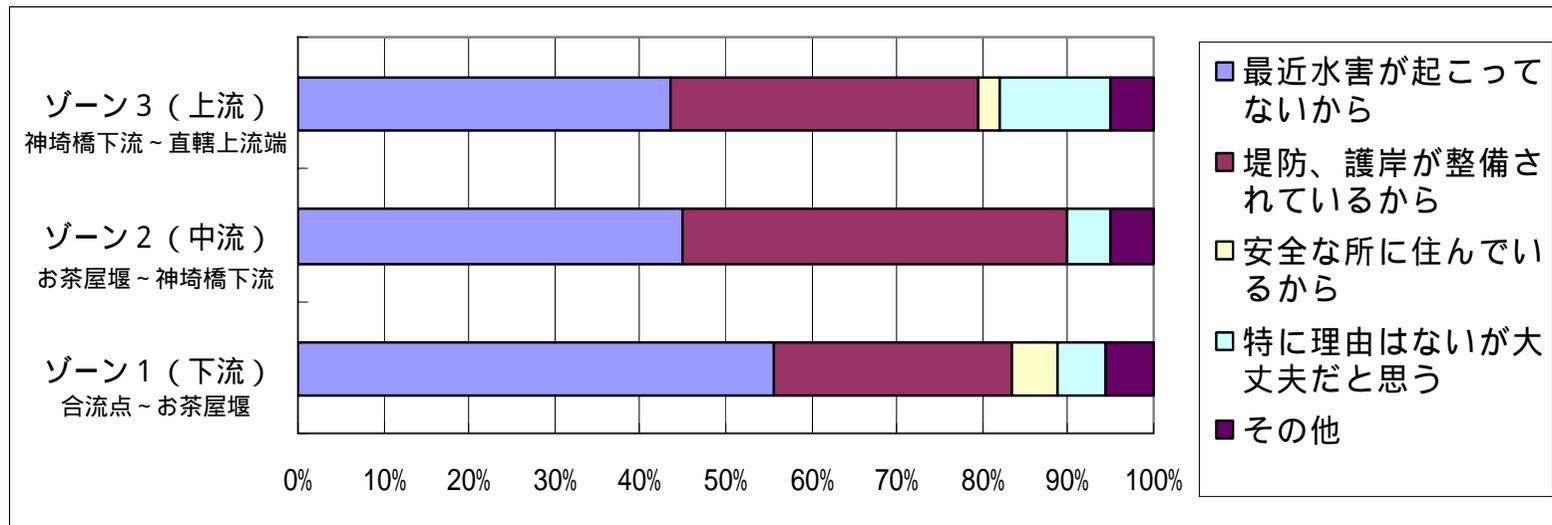
・ Q3で「安全だと思う」と答えた方はどうしてそう思いますか？

<全地区>



「最近水害が起きていない」ので安全という意見が約50%であった。中流は他の地区に比べ「堤防・護岸が整備されているから」安全だという意識が高い。

<地区毎>

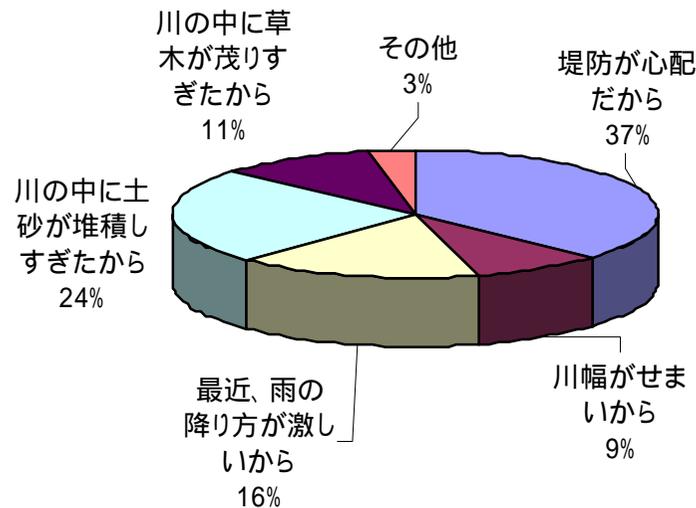


地元説明会でのアンケート結果

Q5 . 【洪水対策に関すること】

・ Q3で「安全だと思わない」と答えた方はどうしてそう思いますか？

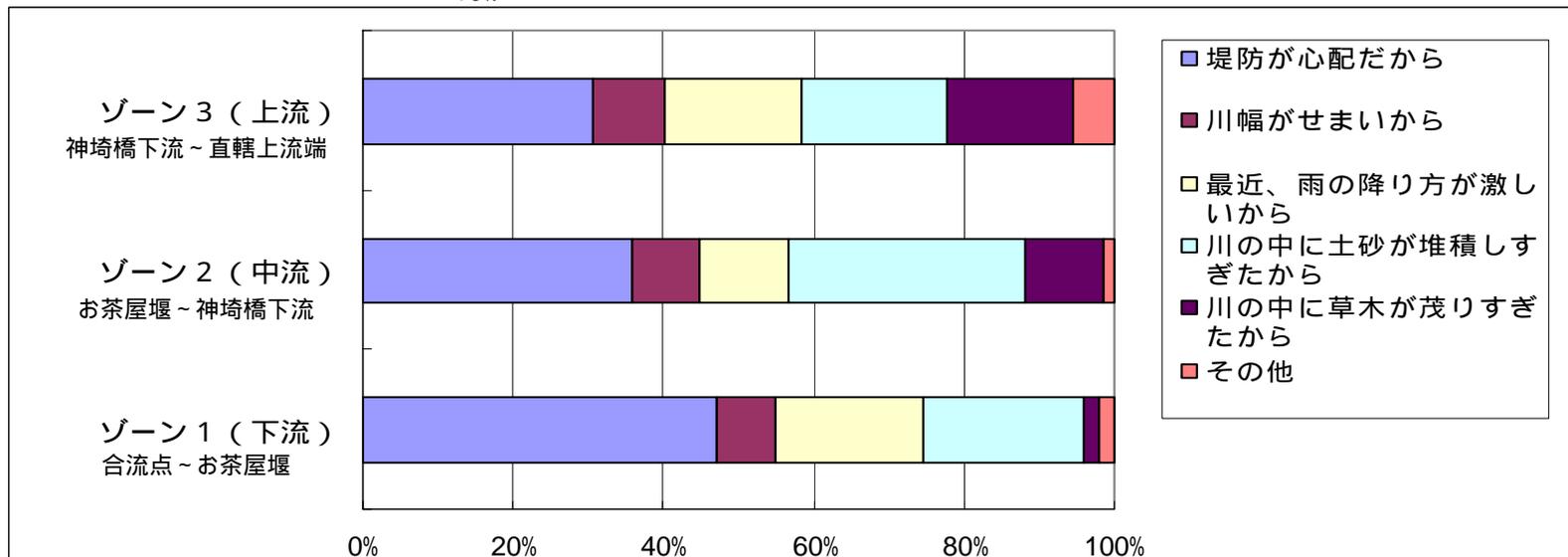
< 全地区 >



下流は「堤防が心配だから」という意見が多く、中流では堤防に対する不安に加え「川の中の土砂が堆積しすぎたから」という意見が多かった。

上流は堤防に対する不安に加え「川の中に草木が茂りすぎたから」、という意見の割合が多い。

< 地区毎 >



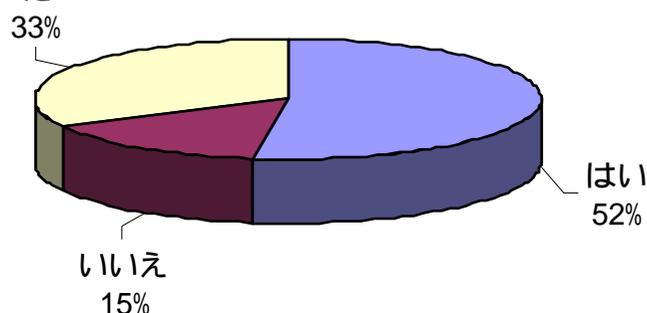
地元説明会でのアンケート結果

Q6 . 【防災意識に関すること】

・今年の7月4日の雨で、城原川の水位が堤防の高さの近くまで上がりましたが、その時不安を感じましたか？

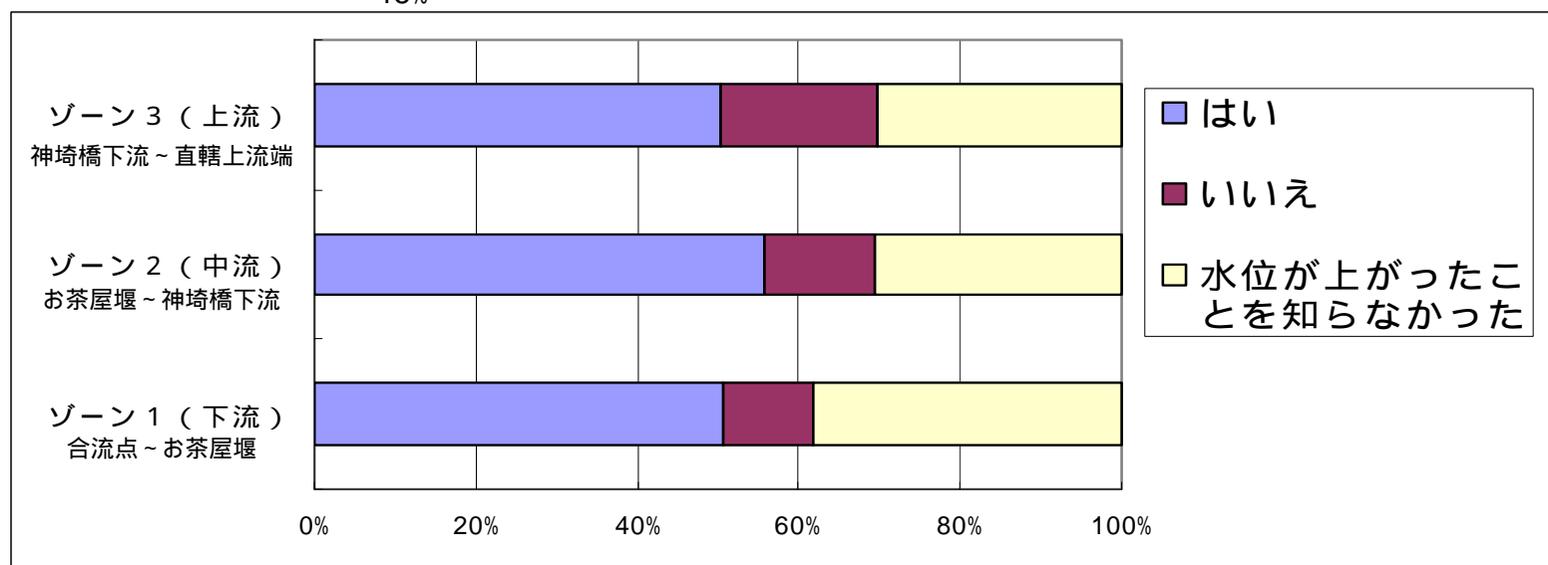
<全地区>

水位が上がったことを知らなかった



不安を感じた方が約50%である。しかし「いいえ」「水位が上がったことを知らなかった」という意見も約50%弱であった。

<地区毎>

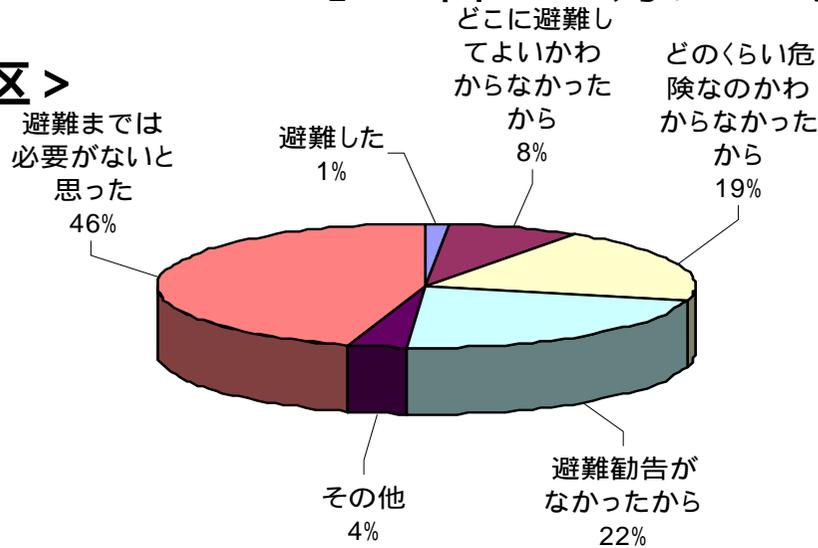


地元説明会でのアンケート結果

Q7 . 【防災意識に関すること】

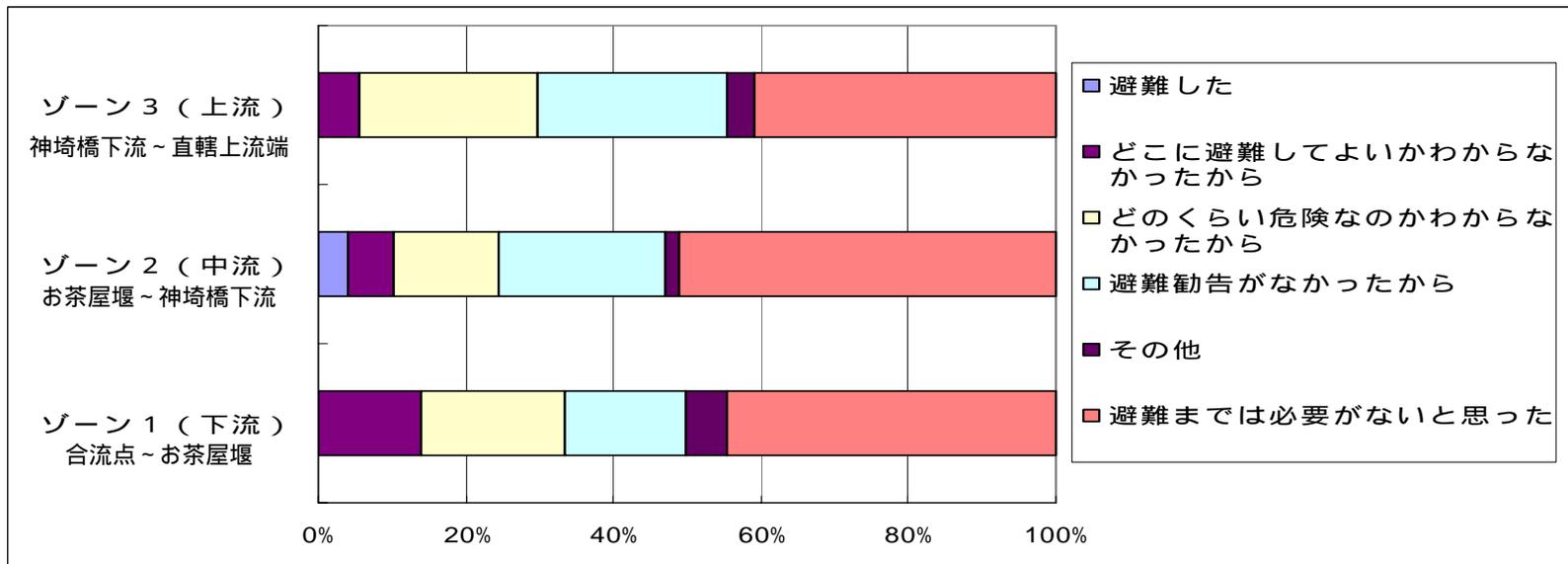
・ Q6で「はい」と答えた方にお尋ねします。

<全地区>



不安を感じた方の中で「避難までの必要はないと思った」という意見が約50%であった。

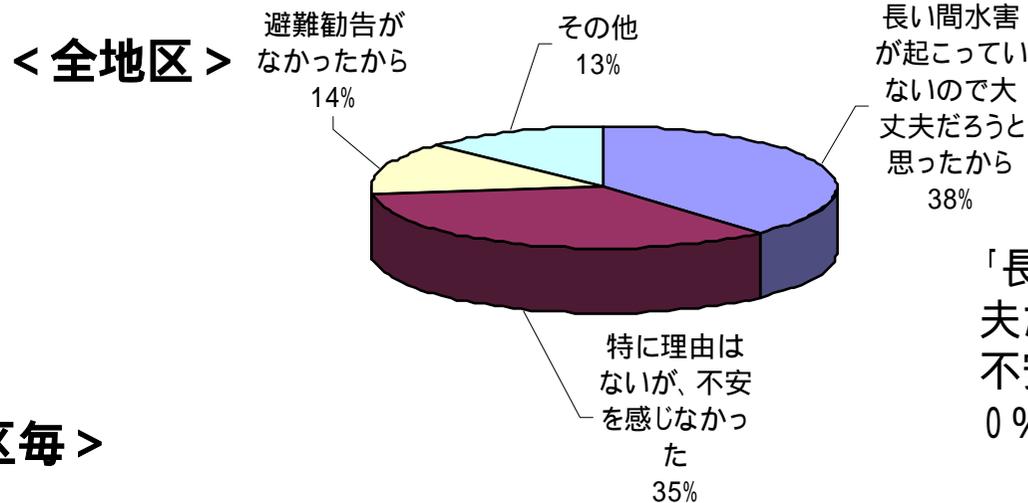
<地区毎>



地元説明会でのアンケート結果

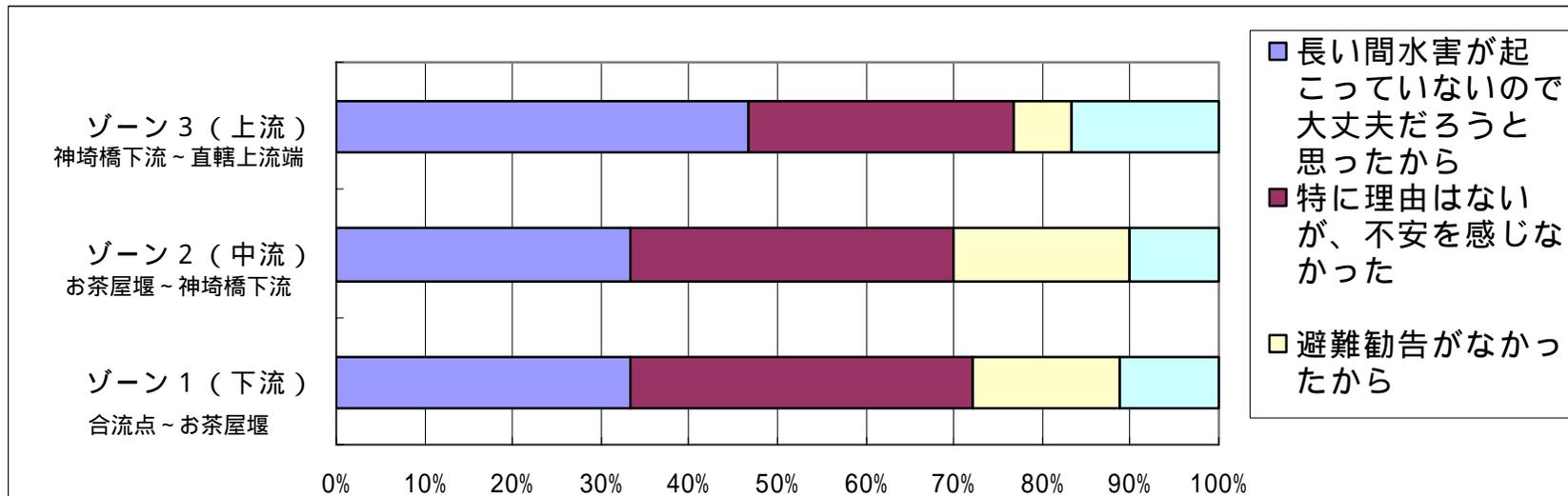
Q8 . 【防災意識に関すること】

・Q6で「いいえ」と答えた方にお聞きします。不安を感じなかった理由を教えてください。



「長い間水害が起こっていないので大丈夫だと思ったから」「特に理由はないが不安を感じなかった」という意見が約70%であった。

< 地区毎 >

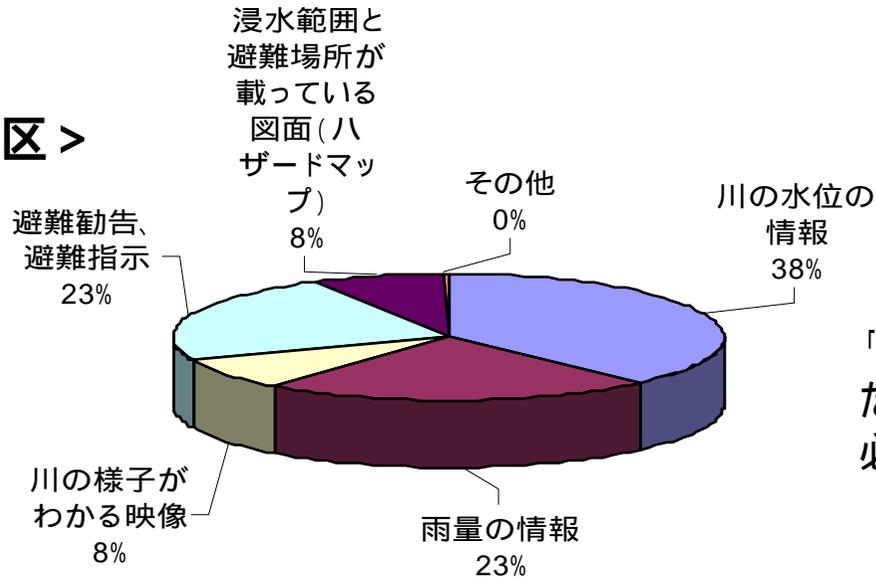


地元説明会でのアンケート結果

Q9 . 【防災意識に関すること】

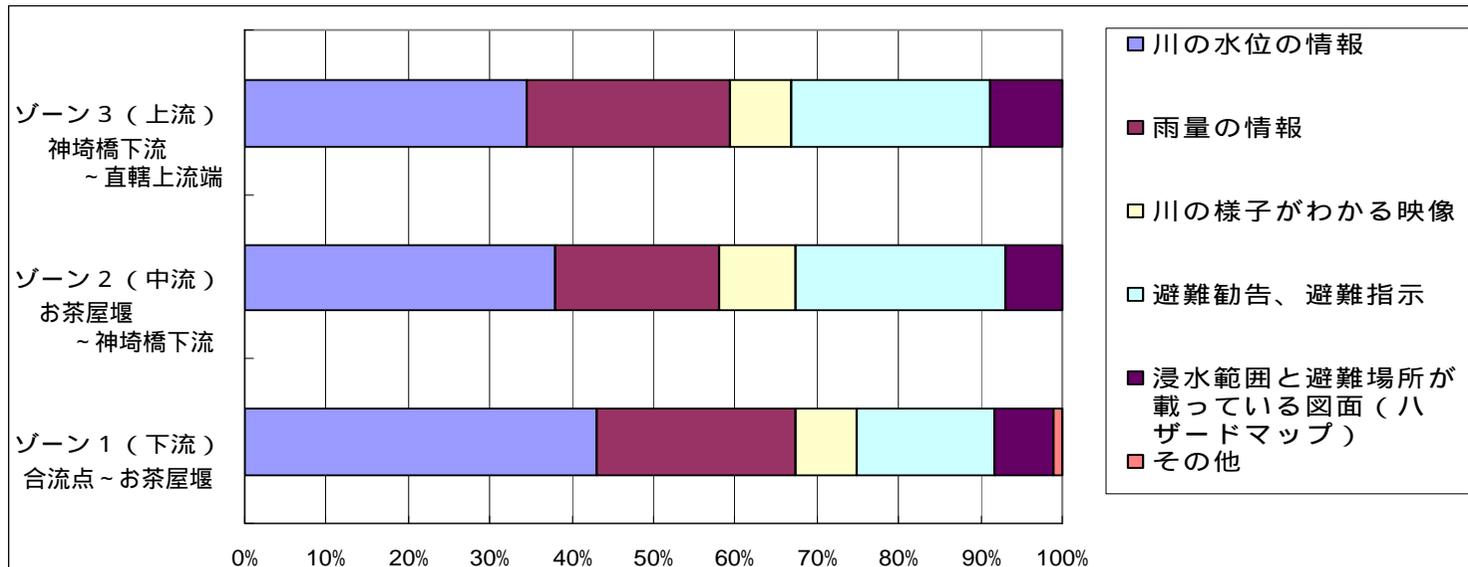
・大雨や洪水の時に避難の目安になる情報はなんだと思いますか？

<全地区>



「川の水位の情報」「雨量の情報」と答えられた方が60%あり、わかりやすい情報の必要性が求められている。

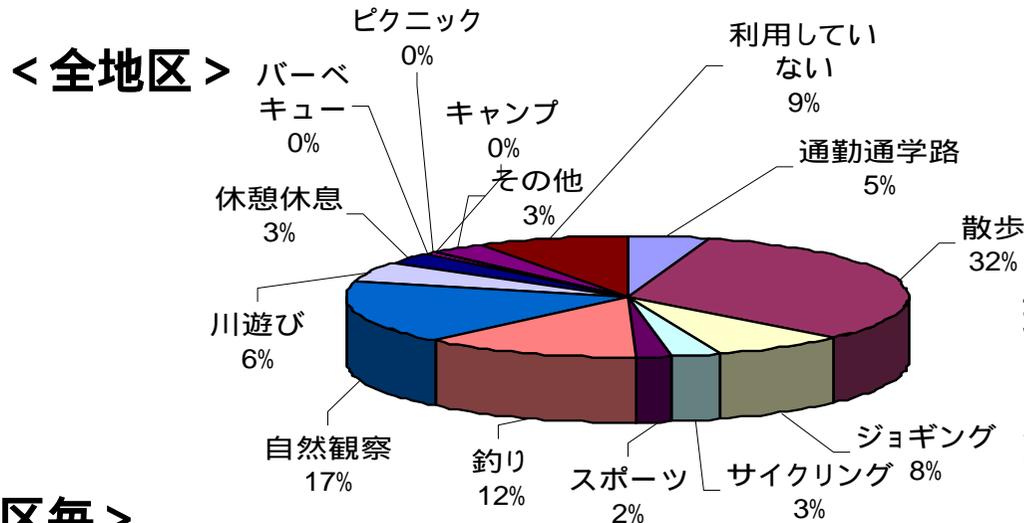
<地区毎>



地元説明会でのアンケート結果

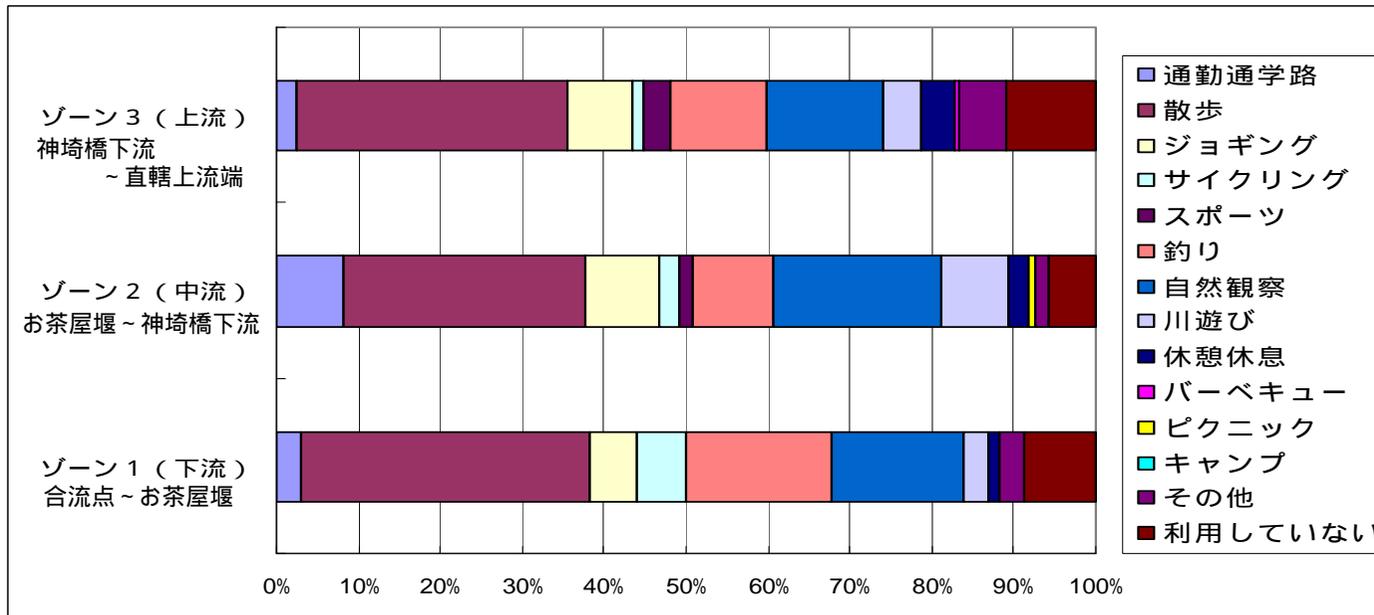
Q10. 【利用に関すること】

・あなたは日頃、川をどのような目的で利用していますか？



現在の城原川の利用については、各地区大きな相違はなく、「散歩」の利用が多く、次に「釣り」「自然観察」で利用している意見が多かった。

<地区毎>

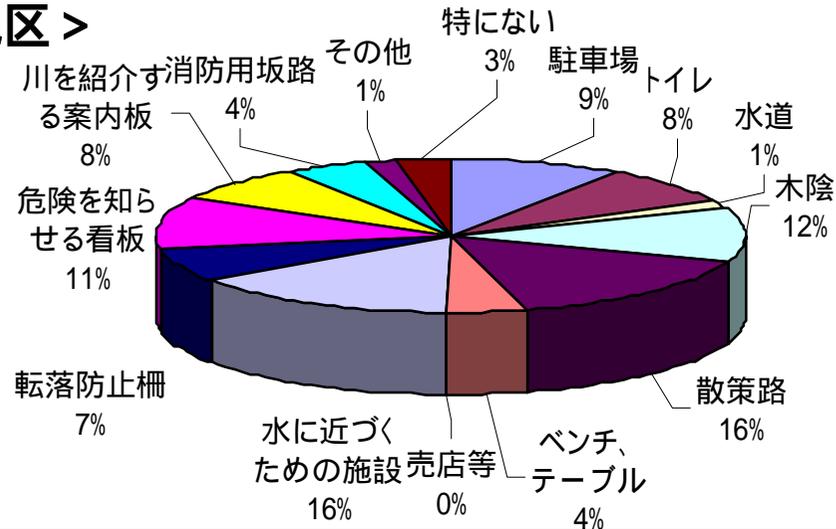


地元説明会でのアンケート結果

Q11. 【利用に関すること】

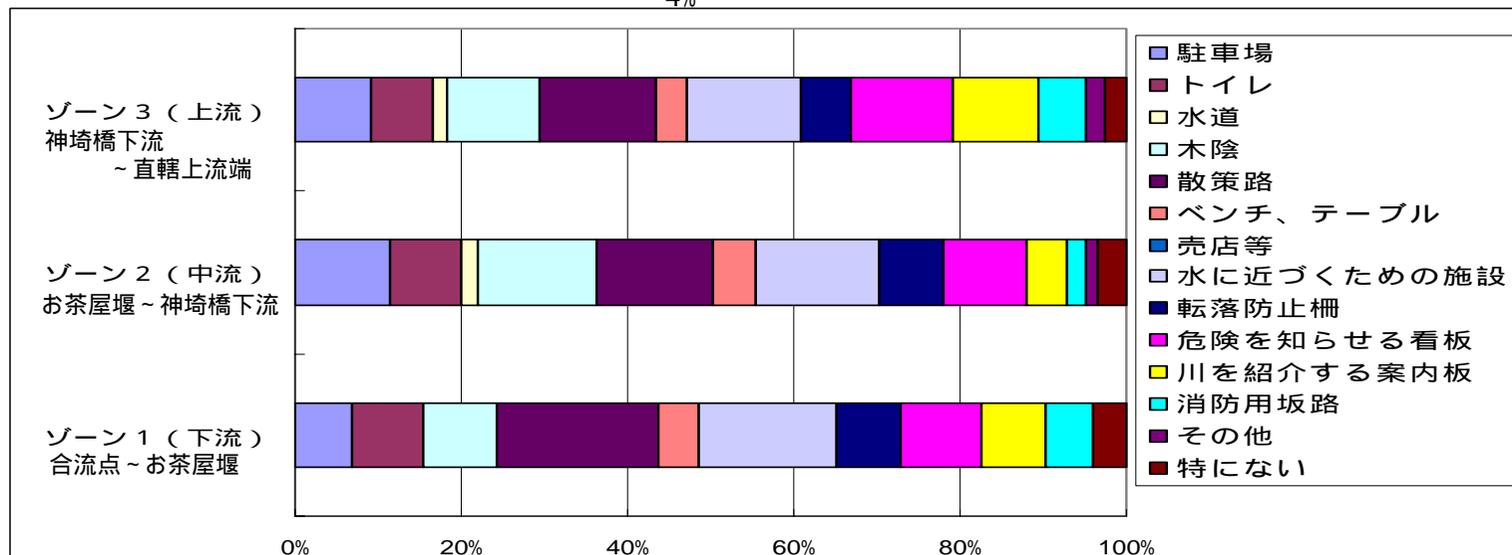
- ・利用するうえで整備して欲しいことをお聞かせください。

<全地区>



「木陰」「散策路」「水に近づくための施設」「危険を知らせる看板」の整備が求められている。

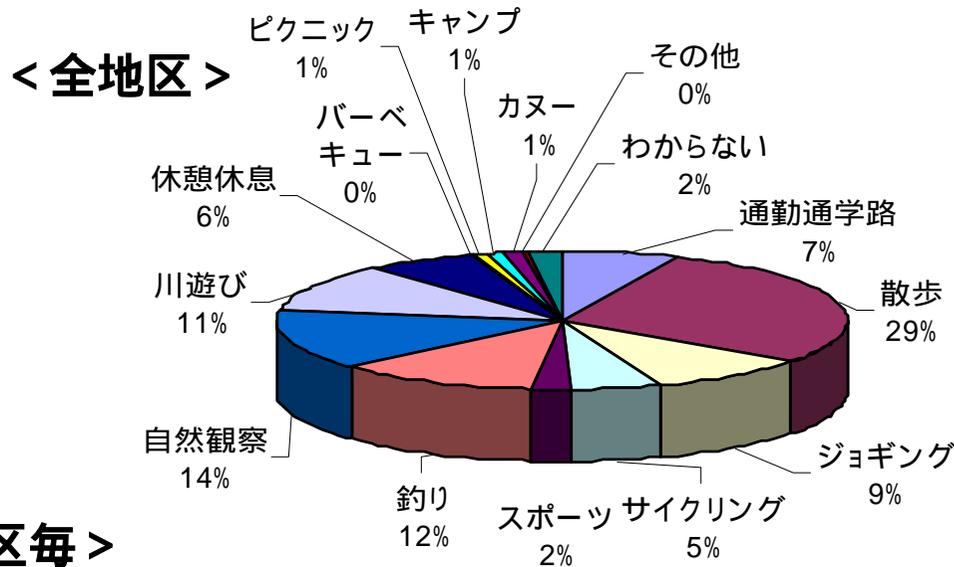
<地区毎>



地元説明会でのアンケート結果

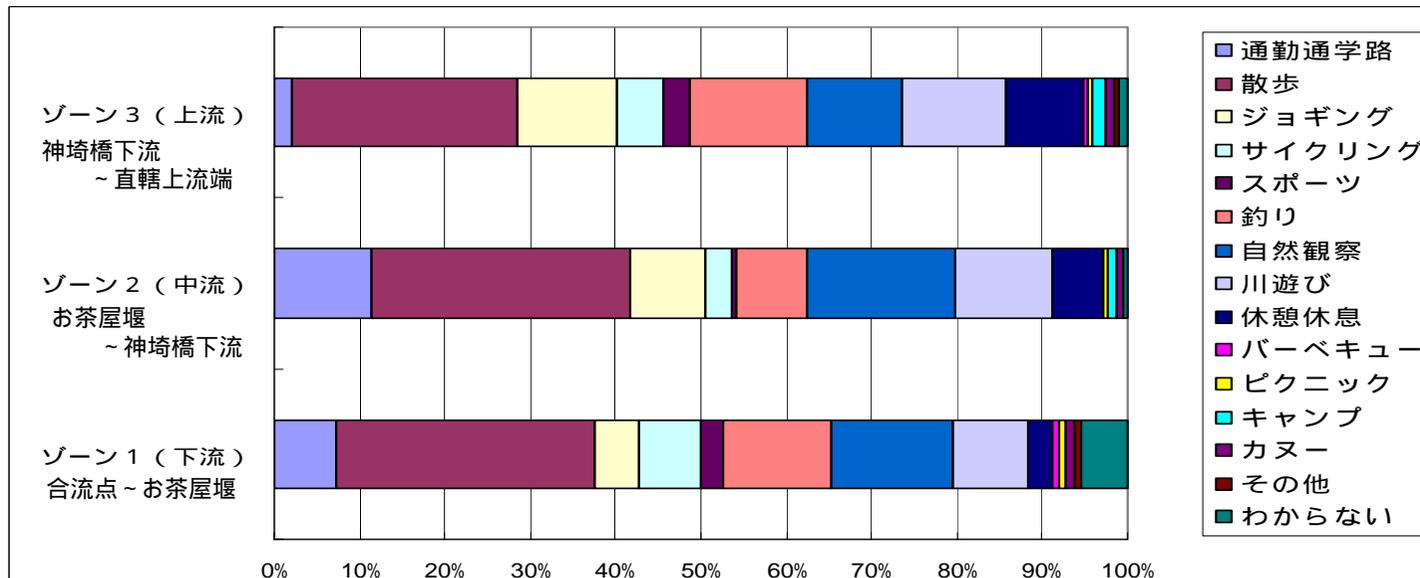
Q12. 【利用に関すること】

・これから城原川をどのように利用していきたいと思いませんか？



今後の利用については、各地区大きな相違はなく、「散歩」の利用が多く、次に「釣り」「自然観察」「川遊び」で利用していきたいという意見が多かった。

<地区毎>

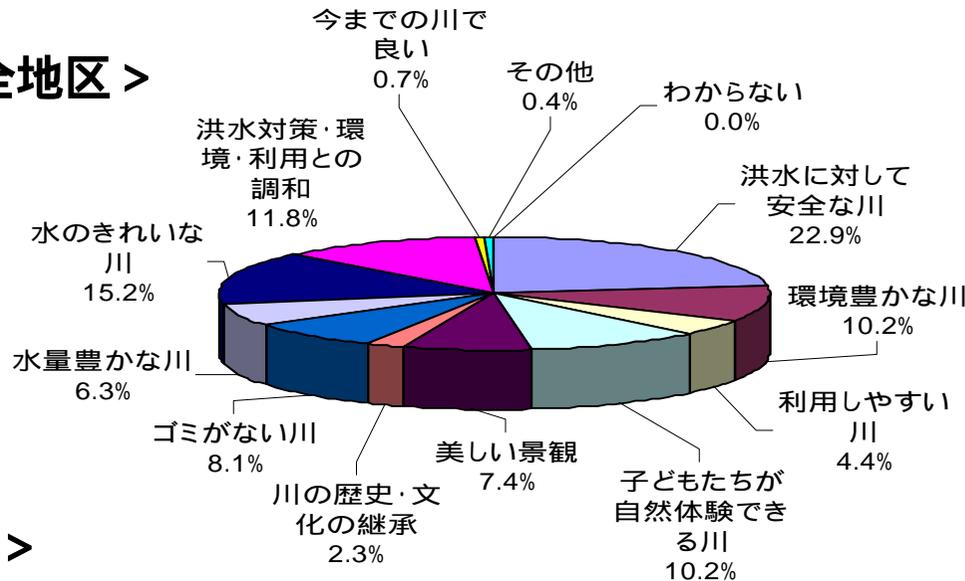


地元説明会でのアンケート結果

Q13. 【利用に関すること】

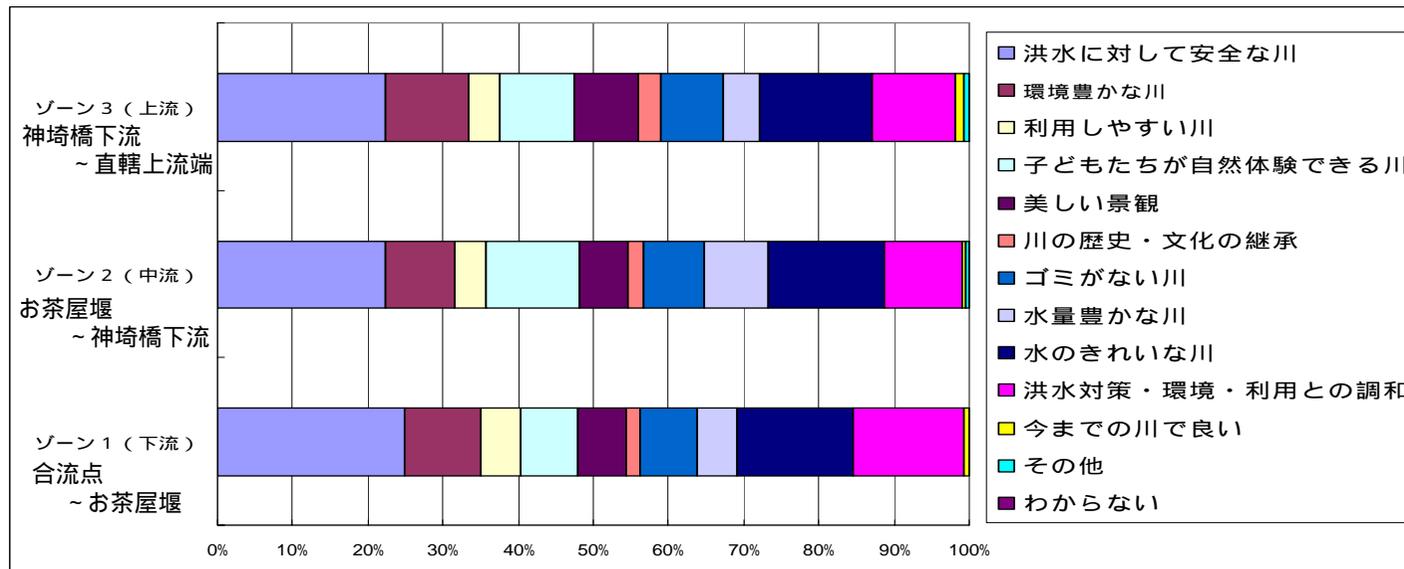
・これからの城原川に望むことは何ですか？

<全地区>



「洪水に対して安全な川」に望むという意見が多く、次に「環境豊かな川」「子どもたちが自然体験できる川」「水のきれいな川」という意見が多い。

<地区毎>



地元説明会での自由意見

<治水>

ゾーン1(下流)	ゾーン2(中流)	ゾーン3(上流)
・下流優先で整備して欲しい	・下流優先で整備して欲しい	・人家が密集している上流優先で改修して欲しい。
・堤防の嵩上げ、強化を行って欲しい。 ・高潮時の不安がある	・堤防嵩上げ、補強をして欲しい。 ・堤防漏水の不安がある。	・堤防補強、中洲の除去などして欲しい。 ・堤防漏水の不安がある。
・河床のガタ土の撤去を。	・河床のガタ土、土砂の撤去を。	・河床の土砂撤去、草木の除去を。
		・住宅も増えているので野越をあげて欲しい。
・降雨や台風時の城原川の状況を迅速に伝えて欲しい。	・危険水位の目安を現地でわかるようにして欲しい。	

*** 下流は高潮に対する不安、ガタ土撤去、堤防の補強、中流は堤防補強、漏水など、上流部は堤防補強、漏水に加え野越について意見があった。各地区ごとに洪水に対する課題は異なっているが、治水重視という意見が多かった。また防災情報の必要性についても意見があがっていた。**

地元説明会での自由意見

<利 水>

ゾーン1(下流)	ゾーン2(中流)	ゾーン3(上流)
<ul style="list-style-type: none"> ・水量が少なくなっている。水を流して欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水量が少なくなっている。水を流して欲しい。 ・堆砂などの影響により樋管より取水できなくなっている。 ・城原川の水を環境用水としてクリークに流して欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・流量を保ち、水利用が不足しないようにして欲しい。 ・堆砂などの影響により樋管より取水できなくなっている。
<ul style="list-style-type: none"> ・取水樋管の漏水の修繕をして欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・取水樋管の漏水の修繕をして欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・樋管の老朽化の問題を行政も一緒に考えて欲しい。

<環 境>

ゾーン1(下流)	ゾーン2(中流)	ゾーン3(上流)
	<ul style="list-style-type: none"> ・環濠集落と城原川のネットワークを構築して欲しい。 ・魚が棲めるようにして欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・魚が棲めるようにして欲しい。
<ul style="list-style-type: none"> ・水質を良くして欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水質を良くして欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水質を良くして欲しい。

*** どの地区も城原川の水不足、樋管の漏水に対する修繕、水質向上という意見が多かったが、水利用に関する問題を自分たちの問題として捉え、解決しようという意識は低かった。**

地元説明会での自由意見

<利 用>

ゾーン1(下流)	ゾーン2(中流)	ゾーン3(上流)
・ガタ土が溜まり危険なので親水施設は難しいのではないか。	・既存の親水施設も活用されていないため親水施設は作らなくて良い。	・既存の親水施設も活用されていないため親水施設は作らなくて良い。
・親水施設をつくったら維持管理をして欲しい。	・親水施設を作って欲しい。	
・昔のように川に触れ合うことができ、子どもが遊べる川にして欲しい	・昔のように川に触れ合うことができ、子どもが遊べる川にして欲しい	・昔のように川に触れ合うことができ、子どもが遊べる川にして欲しい
・堤防天端を広くして欲しい。	・堤防天端を広くして欲しい。	・堤防天端を広くして欲しい。
	・堤防天端の離合場所を増やして欲しい。	・堤防天端の離合場所を増やして欲しい。

*** 治水を重要視されているため「親水施設は作らなくて良い」という意見がある一方、「昔のように川に触れ合うことができ、子どもが遊べる川」という意見もあった。**

地元説明会での自由意見

<管 理>

ゾーン1(下流)	ゾーン2(中流)	ゾーン3(上流)
・地域住民での維持管理は難しい。	・地域住民での維持管理は難しい。	
・除草を頻繁にして欲しい。	・除草を頻繁にして欲しい。	・除草を頻繁にして欲しい。
・ゴミのない川にして欲しい。		・ゴミのない川にして欲しい。

*** 除草やゴミなど維持管理に対して要望はあったが、地域住民で行っていくことは難しいという意見が多かった。**

地元説明会及びアンケート調査のまとめ

【治水】

説明会を行ったほとんどの箇所において洪水対策を急いでほしいという声強い。

下流地区においてはガタ土の堆積に対する治水上の不安などに対する意見が多かった。

中流地区は土砂の堆積、漏水に対する不安の声が強かった。

上流地区は野越に対する不安の声が強かった。

【利活用・環境】

親水整備などは行わず治水対策を優先してほしいという意見があった一方、アンケートでは、今後城原川を「子どもたちが自然体験できる川」、「散歩」、「自然観察」などができる川にしてほしいという意見が多かった。

説明会で多かった意見としては、昔のように川に触れ合うことができ、子どもが遊べる川にして欲しいという意見が多かった一方で、いきなりは子どもは川には行かないのでは…？

子どもでも安全な親水施設の整備を行い、地域と一体となったソフト対策の検討が必要。

【利水】

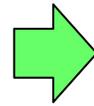
説明会を行ったほとんどの地区において環境用水が不足しているという声強くあった。

水利用に関する問題を自分たちの問題として捉え・解決しようという意識は低かった。

3 . 城原川かわづくりプランについて

今後の進め方について

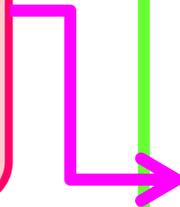
筑後川水系河川整備計画策定
(18年7月20日)



沿川地区説明会(計16回)

城原川沿いの地区を対象

川づくりプランへの意見
平成18年度工事の説明



子ども会議

小中校生3,000人程度を対象
にカードを配布し意見聴取

小学生による会議を開催



城原川未来づくり懇談会

第1回(9月13日)
城原川の現状についての整理

第2回(10月27日)
川づくりに関する基本事項の検討

第3回(11月20日)
川づくりプランの検討

第4回(1月11日)
川づくりプランの検討(構成の検討)

第5回(2月中旬)
川づくりプラン(案)の検討

第6回(3月中旬)
川づくりプランの策定

第7回 アクションプランの検討

城原川かわづくりプランの構成

城原川かわづくりプランとして報告書に取りまとめる。

報告書は、「城原川未来づくり懇談会」としてとりまとめを行う。

1．はじめに

2．かわづくりプランの概要

(1)城原川未来づくり懇談会について

(2)プラン策定の経緯

3．治水対策の概要

(1)筑後川水系河川整備計画

(2)城原川の治水対策

4．城原川の現状と課題

(1)歴史および文化

(2)治水

(3)自然環境

(4)河川利用

5．城原川かわづくりプラン

(1)基本コンセプト

(2)コンセプトの考え方

(3)ゾーン区分

(4)かわづくりメニュー

参考資料

・城原川未来づくり懇談会資料

城原川かわづくりプランの内容（１）

【目次構成】

【内容】

1．はじめに

かわづくりプランの目的

2．かわづくりプランの概要

(1)城原川未来づくり懇談会
について

城原川未来づくり懇談会の設立
趣旨 懇談会メンバー

(2)プラン策定の経緯

城原川未来づくり懇談会，地元
説明会スケジュール
策定までの流れ

3．治水対策の概要

(1)筑後川水系河川整備計画

(2)城原川の治水対策

基本理念 城原川の記述内容
治水対策の目標(洪水，高潮)
対策工事の内容と施行区間
(河道掘削，堤防の拡幅・強化，
堰・橋梁改築，野越嵩上げ)
対策工事のスケジュール

4．城原川の現状と課題

5．城原川かわづくりプラン

参考資料

城原川かわづくりプランの内容（２）

【目次構成】

1．はじめに

2．かわづくりプランの概要

3．治水対策の概要

4．城原川の現状と課題

(1) 歴史および文化

(2) 治水

(3) 自然環境

(4) 河川利用

5．城原川かわづくりプラン

参考資料

【内容】

城原川の治水・利水の歴史
(干拓，クリーク，草堰，お茶屋堰，野越，三千石堰等の概要)

過去の水害の状況 (S28災等)
これまでの治水対策
(災害助成事業等)

汽水域，淡水域の自然環境
(植物，魚類，鳥類 水棲生物，水質等)

水利用(アオ取水，クリーク等)
川と人との関わり(昔) (川遊び・交流，長崎街道，集落等)
川と人との関わり(今) (リバーズクール，吉野ヶ里菜の花 マーチ等)

城原川かわづくりプランの内容（3）

【目次構成】

1．はじめに

2．かわづくりプランの概要

3．治水対策の概要

4．城原川の現状と課題

5．城原川かわづくりプラン

(1)基本コンセプト

(2)コンセプトの考え方

(3)ゾーン区分

(4)かわづくりメニュー

参考資料

【内容】

城原川のこれからのかわづくりに向けての基本コンセプト

『水と暮らすふるさとを守り・心を育む川づくり』

基本コンセプトの考え方

ゾーン1～ゾーン3について

多自然型川づくり、立ち寄りスポット、桜づつみ、親水拠点、魚道の設置、リバースクール、地域防災力向上、まちづくりと一体となった治水対策、環濠集落とのネットワーク、住民参加による管理など

基本コンセプト（案）

城原川かわづくりの基本コンセプト

水と暮らすふるさとを守り・心を育む川づくり

城原川はこれまでに幾多の水害をもたらす一方で、古くから草堰の取水により佐賀平野を潤し、また生活用水の一部や遊び・学び・憩いの場として利用されてきました。これからの川づくりでは水害からふるさとを守るとともに城原川に対する心が育まれるような川づくりを目指します。



コンセプトの柱（案）

コンセプトの3つの柱

安全に暮らせる 基盤づくりと地 域防災力の向上

洪水に対する安全性を確保する基盤づくりを進めるとともに、地域を含めた総合的な防災力を向上させる川づくりを目指します。



自然豊かで多様 な生物の生息空 間の保全

瀬や淵、干潟環境からなる生態系と草堰やヨシ原が織りなす川の風景を保全・再生する川づくりを目指します。



人と川とのつな がりの再生

昔、川は人が集う場であり地域交流の場でした。人と川とのつながりを再生し人々に親しまれる川づくりを目指します。



コンセプトの柱（案）

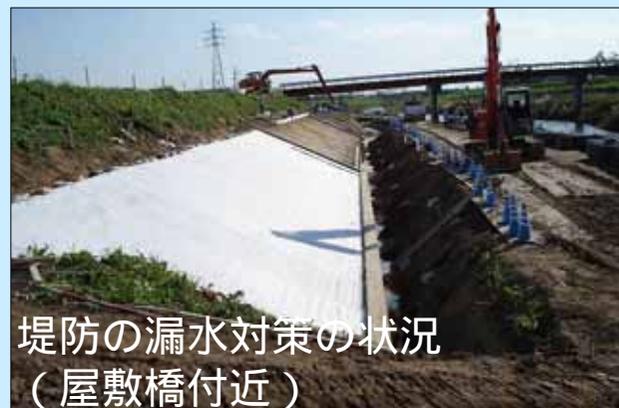
安全に暮らせる基盤づくりと地域防災力の向上

河道掘削や堤防の嵩上げ・拡幅・強化などの治水対策を実施し、地域の安全を確保する

地域住民と自治体、河川管理者の関係が協働し、洪水に対して安全な地域づくりを推し進める。



昭和28年水害直後の神埼橋



堤防の漏水対策の状況
(屋敷橋付近)

コンセプトの柱（案）

自然豊かで多様な生物の生息空間の保全

河川の整備にあたっては、豊かな自然環境と調和した整備を行うとともに、生物の良好な生息・生育空間の保全を図る。

環濠集落など堤内側の生物の生息・生育空間とのネットワークを結び、地域全体での生態系の保全や生物の多様性を図る。

きれいな城原川となるように、地域全体の関心を高め問題に取り組む



「野の川」の風景



環濠集落

コンセプトの柱（案）

人と川とのつながりの再生

豊かな自然環境を活かした親水空間を整備するとともに、人々が城原川を訪れ、理解を深めるための仕組みを作る

上流から下流まで一体となり、水利用のあり方に関して望ましい姿を検討する

地域住民や河川管理者などが対話を重ねることにより、魅力ある地域づくり・川づくりを実現する



城原川親水公園での
親水活動



環境学習（水棲生物
調査）の例

城原川の川づくりに関するコンセプトの柱

～水と暮らすふるさとを守り・心を育む川づくり～

安全に暮らせる基盤づくりと地域防災力の向上

【流下能力向上】

河道掘削、築堤など

【地域防災力の向上】

災害時に住民が迅速・的確に避難できる体制作り

ハザードマップ、水位等情報提供

【まちづくりと一体となった防災対策】

災害に強いまちづくりを行っていく(防災ステーション、緊急避難路の設置など)

自然豊かで多様な生物の生息空間の保全

【多自然型川づくり】

河道掘削に際し、生態系に配慮した工法で実施する。

(かくし護岸、ワンド等の整備)

【魚道の設置】

河川の連続性確保のための魚道の設置などを行う

【環濠集落やクリークとのネットワーク】

ビオトープネットワークを構築する。

人と川とのつながりの再生

【水辺の立ち寄りスポット】

【親水拠点整備】

上流、中流、下流に親水拠点の整備を行う。合わせてソフト対策も行う。

【地域交流の場を整備】

自転車歩行者道に休憩スポットを整備

【桜並木の整備】

【学習情報板の設置】

【リバースクール】

【住民参加による管理】

ボランティアによる河川清掃、住民による除草

本日議論していただきたいこと

基本コンセプト、コンセプトの柱について
コンセプトの方向性，内容等

川づくりプランの整備メニューについて

かわづくりプラン報告書の内容・構成につい

て

城原川意識調査

調査対象 平成18年12月実施

学校数 小学校10校 中学校3校

小学校 児童数 1928名

中学校 生徒数 1007名

担任 教員数 101名

合計 児童生徒 2935名

教員 101名

城原川意識調査

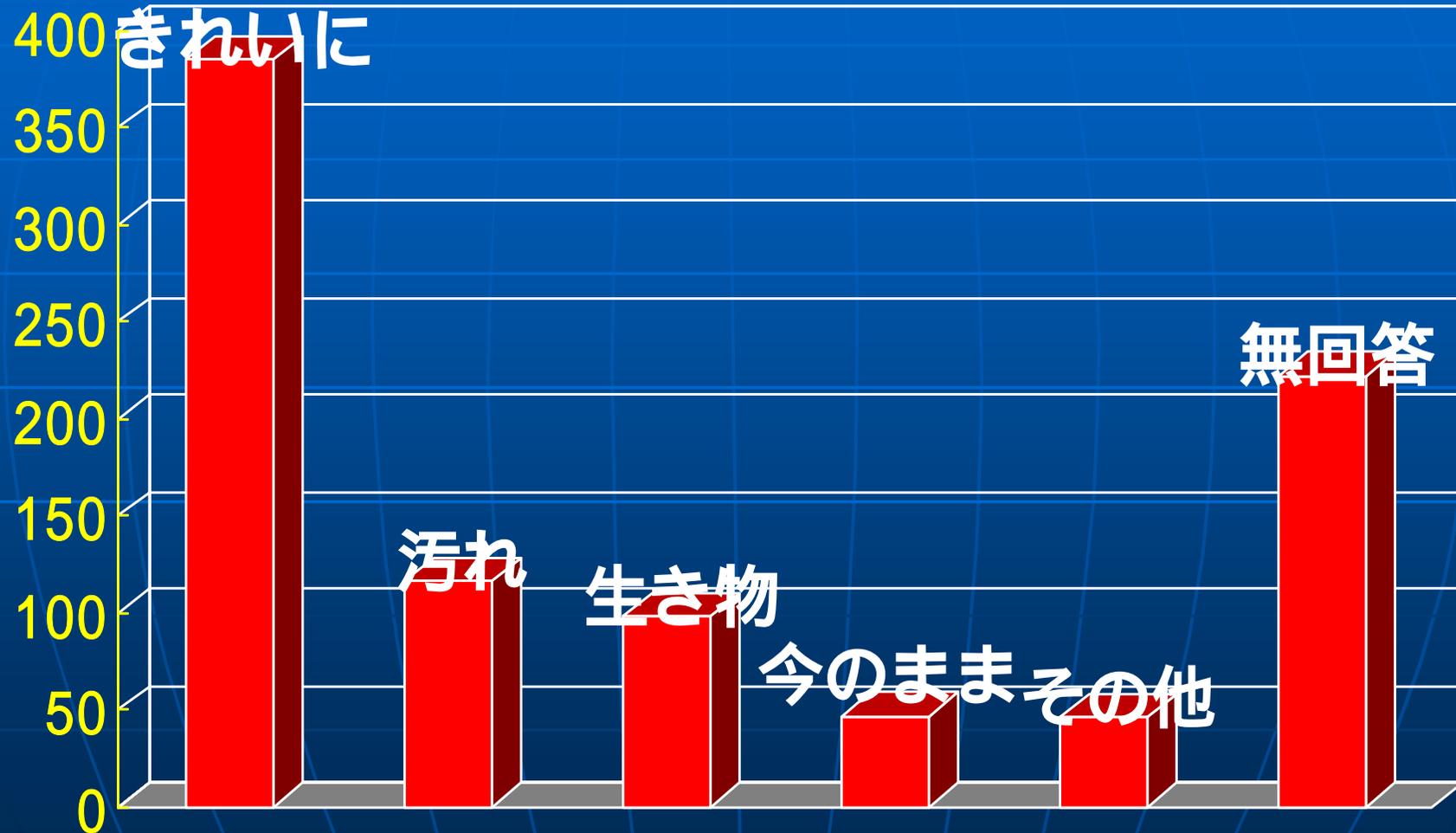
質問紙

城原川をどう思いますか？

- ・日頃川をどのように思っているか。
- ・城原川でやってみたいこと。
- ・こんな城原川になってほしい

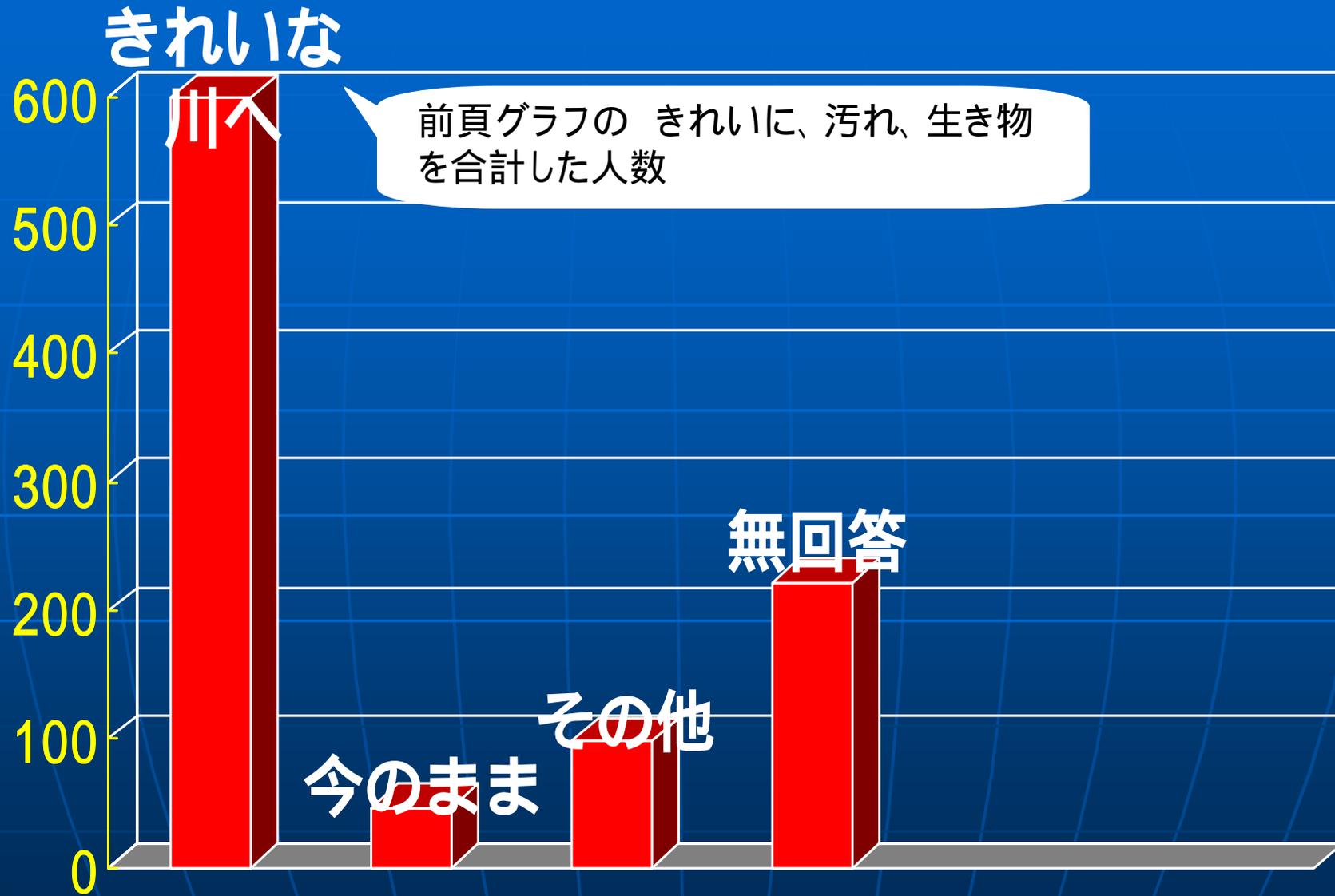
城原川意識調査結果 サンプル 小1、小6、中3 966名

城原川への思い



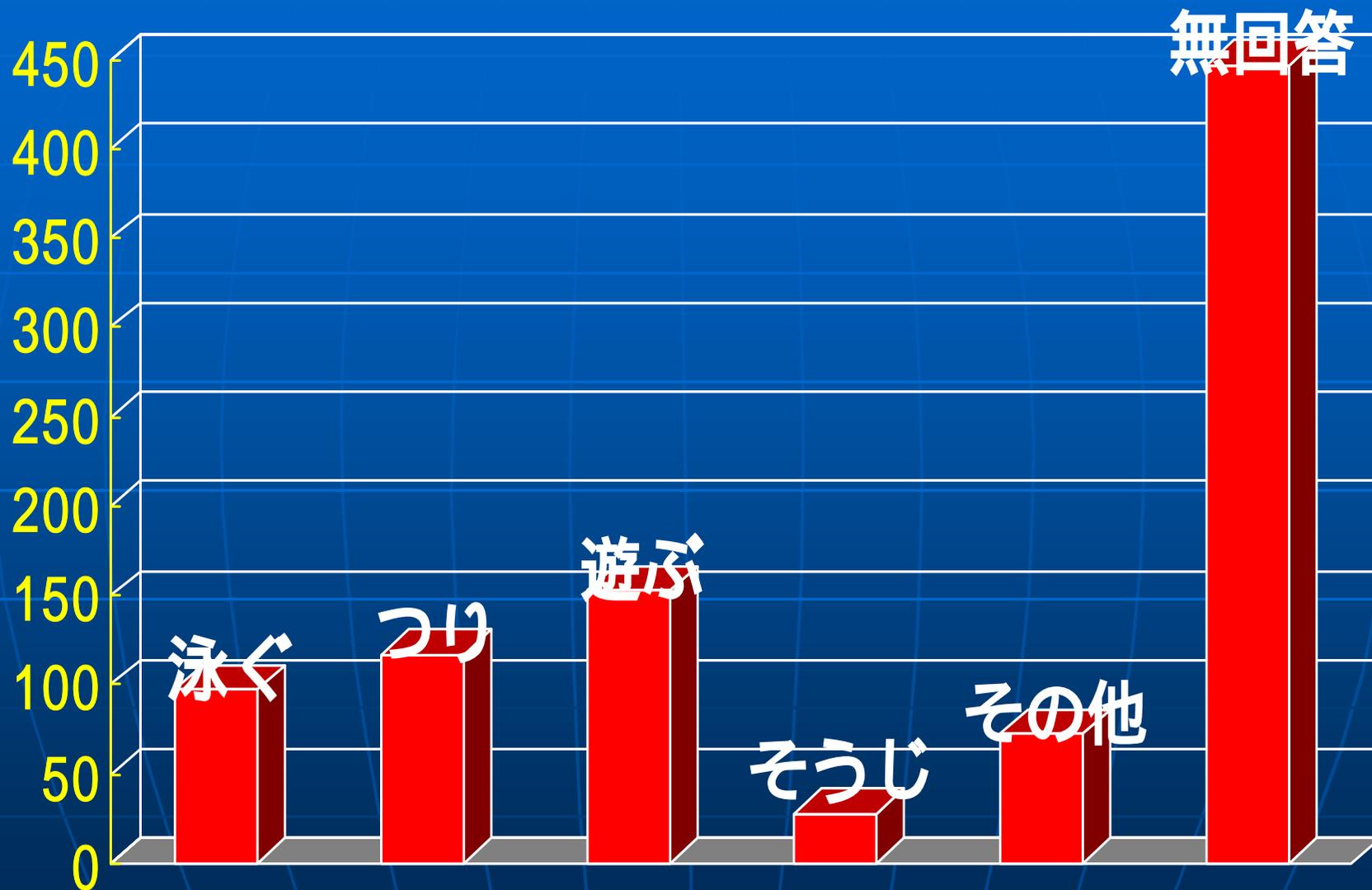
現在、アンケート結果の集計中であり、本資料は小1・小6・中3の生徒の意見のみの集約結果です。

城原川への思い



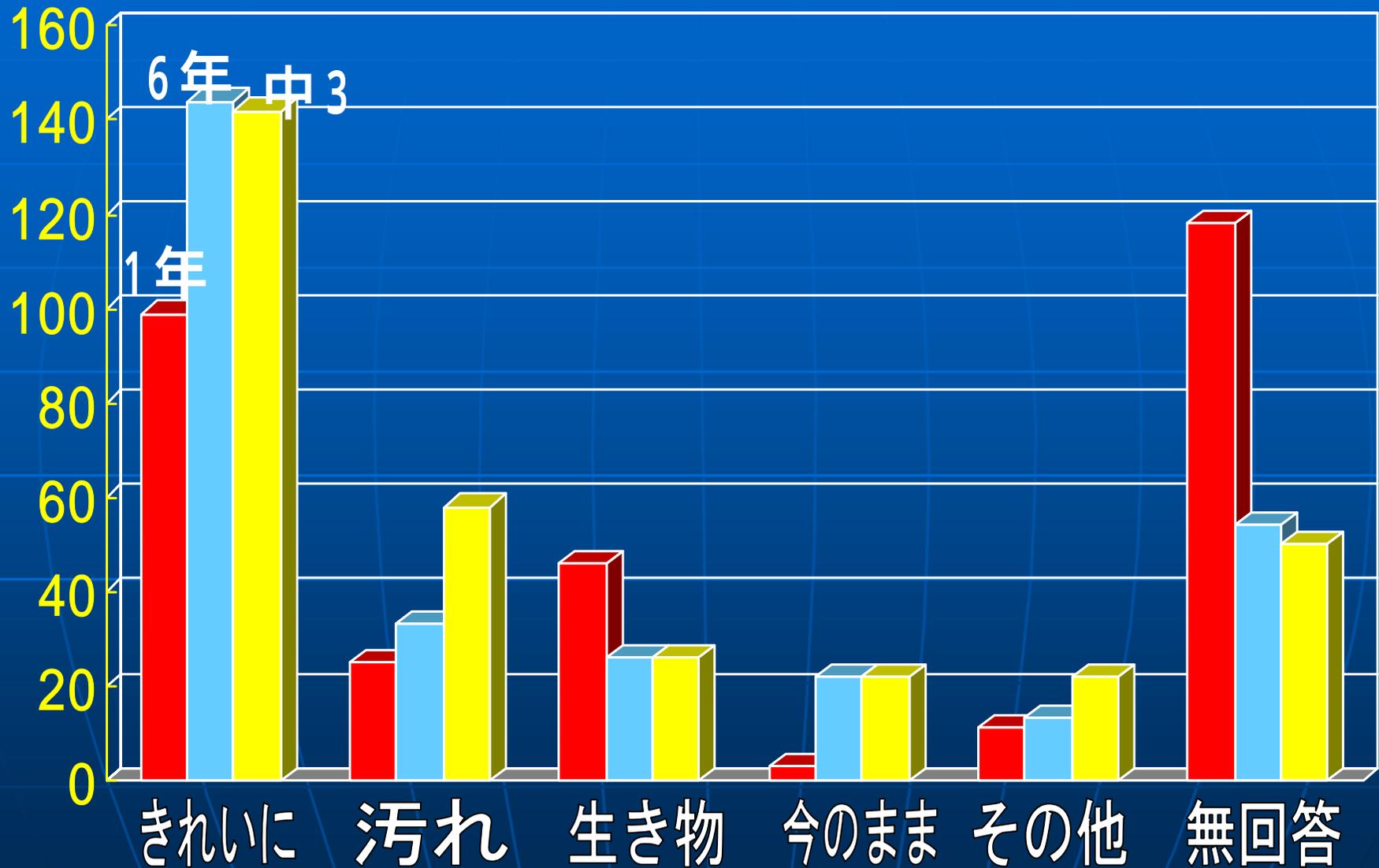
現在、アンケート結果の集計中であり、本資料は小1・小6・中3の生徒の意見のみの集約結果です。

城原川でやりたいこと



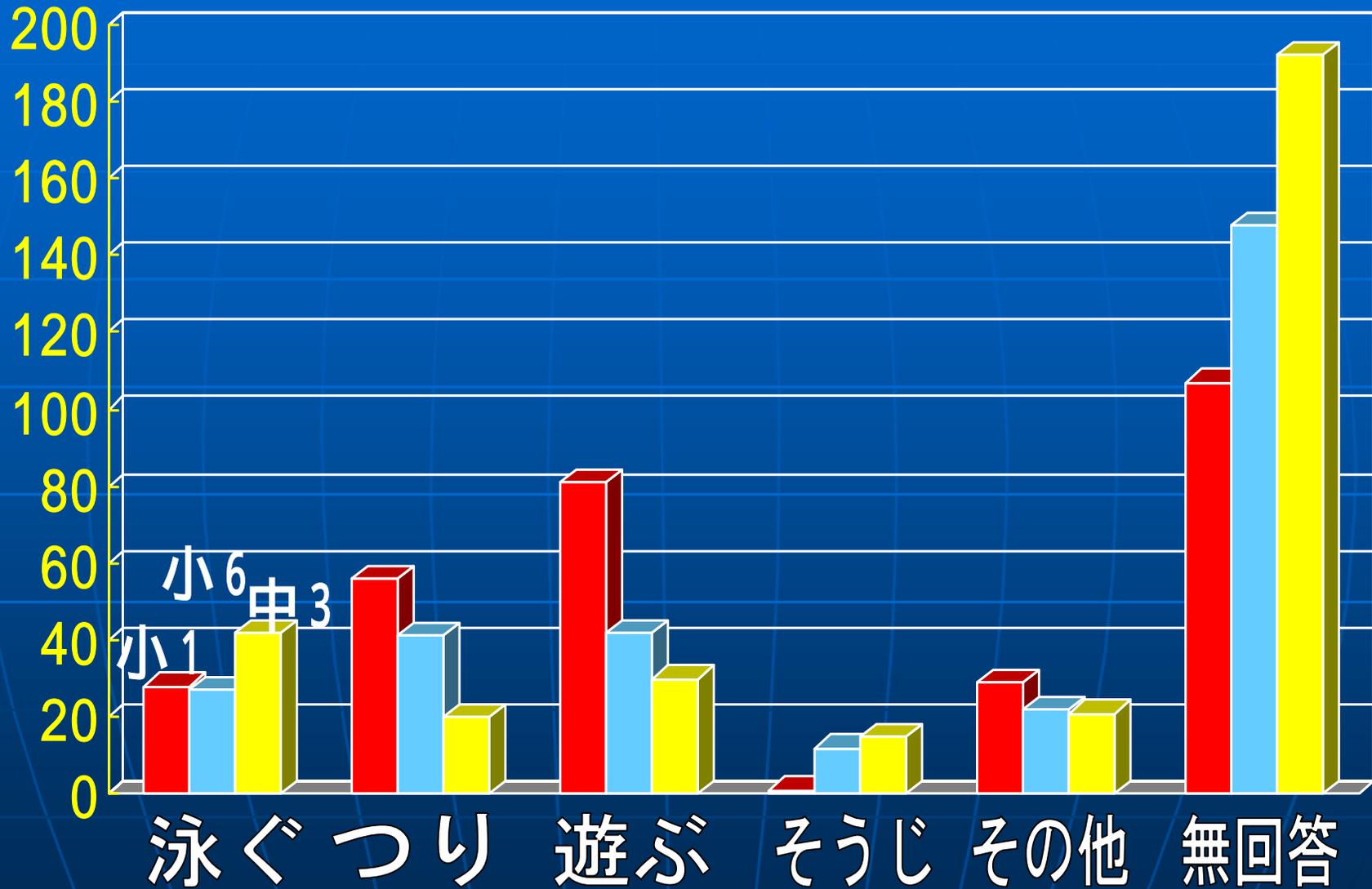
現在、アンケート結果の集計中であり、本資料は小1・小6・中3の生徒の意見のみの集約結果です。

城原川への思い



現在、アンケート結果の集計中であり、本資料は小1・小6・中3の生徒の意見のみの集約結果です。

城原川でやりたいこと

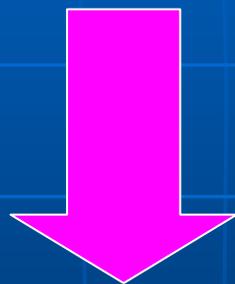


現在、アンケート結果の集計中であり、本資料は小1・小6・中3の生徒の意見のみの集約結果です。

児童の意識の現状（仮）

アンケート結果の集計中であり、本資料は小1・小6・中3の生徒の意見のみの集約結果であるため（仮）となっています。

郷土の川で美しくあつてほしいと願っている

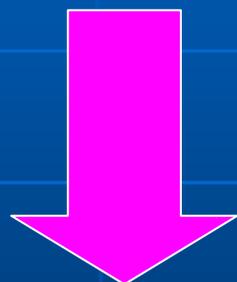


～してほしい。が多い。
主体的な関わりはごく一部

児童の意識の現状（仮）

アンケート結果の集計中であり、本資料は小1・小6・中3の生徒の意見のみの集約結果であるため（仮）となっています。

川での活動について現実感がない



今の川ができない状況
活動の経験が全くない

今後について

全児童・生徒の意識分析
先生方の学習条件の分析
子ども会議による話し合い
子どもの発案による取組の計画

城原川未来づくりアンケート結果（報告）

～ 小学校1年生から6年生までの児童によるアンケート結果 ～

城原川を知っていますか？

はい	23人
いいえ	1人

城原川のそばにこんな遊び場があったら楽しいなと思うものを教えてください。

- ・ 夏休みに友達と泳げるような川にしてほしい
- ・ ボートができる場所
- ・ サッカーができる場所
- ・ 公園があったらいいな
- ・ 夏は泳げる浅い川があったらいいと思う
- ・ 川の水を使い、虹をつくる
- ・ 川の生き物を観察できるところ
- ・ 川でブランコやすべり台ができるところ
- ・ サイクリングロード
- ・ バーベキューができる場所
- ・ 釣り堀がほしい
- ・ 浅瀬をつくって水遊びができたり、すべり台から水の中に直接入れる遊び場がほしい

城原川未来づくりアンケート結果（報告）

～ 小学校1年生から6年生までの児童によるアンケート結果 ～

いこいの水辺はどこに作ったらよいと思いますか？

- ・ 川の近くがいい
- ・ ふるさと大橋の近く
- ・ 安全なところ
- ・ 神埼橋の近く
- ・ 橋本病院の近く
- ・ 川寄橋の側
- ・ 新山公園の近く
- ・ 川の上流
- ・ 城原川を中心
- ・ 協和橋と神埼橋の間がよい
- ・ 水が浅くてきれいで魚が泳いでいるところ
- ・ 利田の東のところに遊び場を作ってほしい
- ・ 浅くて流がゆるやかなところ
- ・ 川の深さが浅い安全なところ
- ・ 川の近くの広いところ
- ・ 神埼橋の北側あたり
- ・ 猪面の公園の近く
- ・ 階段に近いところ

城原川未来づくりアンケート結果（報告）

～ 小学校1年生から6年生までの児童によるアンケート結果 ～

城原川が将来こんなふうになったらいいなと思うことがあれば教えてください

- ・ 大雨のとき水があふれないようにしてほしい
- ・ 川原ができるといい
- ・ 桜の木を植えてほしい
- ・ 自転車で行ける公園
- ・ 川の水がきれいになって魚釣りができる川
- ・ フェンスをつけて、流れるプールみたいになったらいいと思う
- ・ 川の側に噴水をつくる
- ・ 魚や水鳥が増える川にしてほしい
- ・ 大雨の時に水があふれないようにしてほしい
- ・ いつもきれいに草かりをしてほしい
- ・ たくさんの人が来てくれるようなきれいな水と花のある川
- ・ 春は菜の花ロードだから、秋は秋桜ロードにして年中花いっぱいの城原川にしてほしい
- ・ ゴミがいつもない川
- ・ 下まで降りて川のところで遊べるようになったらいいと思う
- ・ ちょっと休んだり、遊んだりできる落ち着ける所
- ・ 城原川を浅くして川をきれいにし、夏にはみんな泳げるようにしたい

城原川の懐かしい写真を募集します。

城原川の懐かしい写真を募集します！

明治、大正、昭和などのなつかしい城原川の暮らしや風景、水害などの写真を募集し、以前からあった城原川への感謝の念、城原川への親しみなどを見直したいと考えています。

募集期間：2月中旬～5月中旬



第4回城原川未来づくり懇談会

平成19年1月11日（木）

第4回城原川未来づくり懇談会

1. 開 会

○事務局 それでは、2名ほどまだ来られていないようではありますが、定刻が参りましたので、ただいまより第4回城原川未来づくり懇談会を開催させていただきたいと思っております。

本日はご多忙の中をお集まりいただきましてありがとうございます。年をまたぎまして新年を迎えたわけですが、今年もよろしく願いいたしたいと思っております。ぜひ活発なご議論をいただければというふうに思っております。

私、司会を仰せつかっております筑後川河川事務所の調査課長の望月でございます。よろしく願いいたします。

それでは、開会に先立ちまして事務所長の井山よりご挨拶を申し上げさせていただきます。

2. 筑後川河川事務所長挨拶

○井山所長 筑後川河川事務所の所長の井山でございます。また本年もよろしく願いいたします。

今日は未来づくり懇談会の4回目ということで、またお忙しいところ夕方の時間をいただきましてありがとうございます。

昨年は本当に集中豪雨あり高潮ありということで、この筑後川の水系といいますか、福岡県側、佐賀県側、いずれも非常に雨の多い、また大災害には至らないまでも災害にさらされたような年であったと思っております。今年は去年ほどの寒さは今のところ来ていませんが、今は渇水期ということで、先ほども城原川沿いにちょっと現場を見ながらこの市役所まで来ましたが、本当に水が流れていないというか、水の利用の問題はまた別の場で今検討が進みつつありますが、お茶屋堰なんかはもうほとんど流れない。ちょうど干潮だったので川の状態がよく見えましたが、水が下流にはほとんど流れていない。逆に言えば、川の生の姿が非常に見やすい季節といいますか、草とかは枯れていますが、ちょっと寂しいなどというような感じを持ちました。水もよどみぎみで決してきれいな感じがしないわけですが、

そういういろんな表情を見せるこの城原川をどうしていくかということで、ぜひまた今年も委員の皆様方におかれてはいろんなご意見等をお聞かせいただいで、これからの川づくりに反映させていければというふうに考えております。

ちょうど年末に、後ほど説明を詳しく差し上げますが、12月の中下旬、地元沿川の各地区に入らせていただいで、約 300人弱の方々の参加のもと、いろんな意見交換と言うのでしょうか、アンケートなんかもお願いしていただきました。去年の出水についての感覚ですね、多くの方はやはり怖かったという感覚をお持ちですが、安心して切っておられる方も少なからずおられます。また、怖かったという方も、怖いということに対して、じゃ、それにどう対処するかという具体策がなく、結果として浸水とかいうことまでいかなかったものでよかったんですが、ハード面も、堤防に対する不安を感じられている方、逆に堤防があるから一見大丈夫だと思われている方がおられますし、ソフト面も、やはり避難の情報とか、水位の情報とか、皆さんとの情報の共有もまだまだ不十分だということも露呈しておるといようなことが非常に如実にあらわれているような、そんな結果が出ています。たまたま昨年そういう出水とか高潮があったというのもありますが、やはり安心・安全をベースにしつつ、どうふだんの川の利用とか環境面をよくしていくか、また水の利用の面も、活用面でどう確保していくかというようなことですね、そんなものを両立させながらバランスのとれた議論を進めていくのが大事なのかなというようなことを、今回の地元にご話していただいでの結果を見ての感想として持っておるところです。

本日は、限られた時間でございますが、かわづくりプランの骨格とか、アンケートの結果とかを披露させていただきながら、いろいろなご意見をお聞かせいただければと思いますので、活発な議論のほどをお願いいたしまして冒頭の挨拶とさせていただきます。よろしくお願ひいたします。

○事務局 それでは、議事に入ります前に、資料の確認をさせていただきたいと思ひます。細かい資料が幾つかバラバラとございます。

まず初めに、議事次第という1枚紙があるかと思ひます。次に、懇談会の本日の席次表をつけさせていただいております。また、第4回城原川未来づくり懇談会という横のホッチキスでとめてある厚い資料がございます。その次に、城原川に関するアンケート。これは、先ほどの所長の挨拶にありました地元説明会をさせていただいたときに地元で実施させていただいたアンケートの表をつけております。また、城原川未来づくりアンケート結果（報告）という、これまた横の資料があるかと思ひます。また、「城原川の懐かしい写

真を募集します。」というカラーの1枚物の紙。また、第5回の日程調整の、第5回城原川未来づくり懇談会の開催についてという2枚物の紙の資料を配付させていただいております。資料の不足等がございましたらおっしゃってください。

それでは、ただいまから議事に入らせていただきたいと思います。議事次第にありますとおり、本日議事としましては3項目、第3回懇談会の内容確認、地元説明会の状況報告、かわづくりプランの検討（構成の検討）ということで3つの項目がございます。多くの意見がいただければなというふうに思います。

それでは、これからの進行は、座長の大串先生をお願いいたしたいと思います。よろしくお願いいたします。

3. 議 事

- 1) 第3回懇談会の内容確認
- 2) 地元説明会の状況報告
- 3) かわづくりプランの検討（構成の検討）

○座長 皆さん、こんばんは。この城原川未来づくり懇談会も今回で第4回になったということですが、今日はお手元にごございますような第3回懇談会の内容確認、それから地元説明会の状況報告、それからかわづくりプランの検討、主に構成の検討ですね、こういうことについてまず事務局から説明をお願いいたします。

○事務局 それでは、説明をさせていただきます。お手元のA4横の分厚い資料、同じ画面が前に出ますので、これで説明をさせていただきますと思います。

（プロジェクター）

まずは初めに、第3回懇談会での主な意見についてです。

主な意見としましては、まず、今後、城原川を一番使ってほしい子供たちの意見も取り入れた方がよいのではないかと。また、アンケートをとるのはどうかという意見が1つ。

あと、今の子供たちの遊び方が変わったんじゃないかと、遊び方を知らないのではないかと。思う。

あと、子供たちの生活環境が変わってきている中で、川の楽しさを教えるプログラムなどを行うことにより、子供たちは川に目を向けていくのではないかと。

あと、親の世代が川遊びを経験していない。そのようなことも踏まえているんことを

つくっていかないと難しいと思うという意見がございます。

あと、川を利用するための安全面や治水面も考えつつ、生態系にも配慮しながら整備をすることが大事だと思う。

有明海沿岸の河川には、有明海特有の魚が生息しており、産卵場所、生活の場所を川と海で使い分けているような魚もいる。その移動が途切れないようなことが必要であり、コンクリートにしなくていい場所は、極力すき間があるような構造物をつくる方がよい。

あと、流域全体として、川の恵み、川のありがたみというものを考えていくべきではないか。今まで流れていたようにクリークに水を流すことも必要。

あと、家の周りにあった昔ながらのクリークの水の循環は重要であり、環境面だけではなく、利水と治水の面でもクリークが大事な役割を持つのではないかと思う。

次に、現在は利水と治水と分けて整備されている。今後これらをどうやって一緒にやっていくのかということは今から考えなくてはいけない問題だと思う。

堤防の上は結構狭いので、できれば斜面の途中にでも歩行者専用道路があるといいのではないかと思う。またスロープや川の中を見ながら歩けるようなものがあつたらいいと思う。

水辺の楽校下流にいいガタ土があつた。このガタ土をぜひ上手に活用できたらいいと思う。

日本人は桜が好きであらゆる場所に桜が植えられているが、川本来の樹木を植えた方がよいという意見がございました。

よく氾濫する歴史を持つ旧千代田の水防団はよく訓練していると聞いている。このような訓練を水防団の方だけの訓練だけではなくて、地域の人と一緒にした訓練をする必要があるのかなと思う。

あと、城原川の整備が決まれば、避難はどのようにすればいいか、災害時の復興など自主防災組織でも考えることができるのでは。

城原川沿川には旧地域、新地域があり地域コミュニティに差がある。これらを踏まえた上で地域防災などを考えていく必要があるといったご意見がございました。

今のは第3回懇談会で出ましたご意見を簡単に整理したものになります。

次に、3回目の懇談会が終わりまして、その後、3回まで議論していただいたものをもとにして地元説明会を開催させていただいております。それで、12月12日から22日にかけて合計16カ所で地元説明会を開かせていただきました。内容は、城原川のかわづくりプラ

ン、図面を使って説明させていただくのと、あと、今年度工事を予定している箇所の概要について話をさせていただいております。参加者の方が合計 292人おられて、全世帯の約 1 割の方に参加していただいたということになります。

これはアンケート結果と書いているんですが、実際、地元説明会に行って、お手元にお配りしていますこの A 4 一枚で、「城原川に関するアンケート」というものをお配りしております。これに実際記入していただいてアンケートを行いました。アンケート調査に関しましては、286名の方から回答をいただいております、出席された方の97%の方の回答を得られております。

アンケートの内容としましては、年齢とか性別といった属性。

2 番目に、あなたにとって城原川のイメージは。

3 番目に、洪水対策に関すること。洪水を経験したことがありますか。あと、城原川は洪水に対して安全だと思いますか。

4 番目に、防災意識に関することで、平成18年7月4日の洪水のときに関する質問なんですが、水位上昇に関して不安を感じましたか。次に、大雨や洪水のときの避難の目安になる情報は何かと思いますかといったこと。

5 番目に、利用に関することについて、日ごろどのような利用していますか。あと、利用する上で整備してほしいことを聞かせてください。これから城原川をどのように活用していきたいと思いますかということです。

6 番目に、これからの城原川について望むことを自由に書いてくださいといったようなアンケートをとらせていただいております。

これがアンケートの結果を整理した表になります。

これは最初の質問なんですが、「あなたの年齢をお聞かせください。」ということで、60歳代の方が41%、50歳代の方が20%、70歳代以上の方が35%、30代の方が2%、40代の方が2%、20代の方は参加者がおられなかったということになります。

性別に関しましては、男性の方が84%参加していただいております、女性の方が16%の参加がございました。

次に、「あなたにとって城原川のイメージは？」といったような質問に対しては、「地域のシンボル」というイメージを持っている人がかなりたくさんおられたということで、城原川に対する関心が高いということが言えるかと思えます。

また下の図は、ゾーン1、ゾーン2、ゾーン3とあるんですが、ゾーン1がお茶屋堰よ

りも下流のガタ土が堆積している区間ですね、下流部。ゾーン2がお茶屋堰から神埼橋の下流の城原川の中流域、ゾーン3が神埼橋より下流から直轄上流端までの上流と、この3パターンに分けて整理しています。下流で見ると、「ガタ土が多い」という印象が非常に強いということがわかります。上流の方に行けば行くほど、「地域のシンボル」という意見とか、あと「自然が豊か」、「きたない」、「憩いの空間」というようなご意見がございいます。

次に、「あなたは洪水を経験したことがありますか？」という質問ですが、全体でいきますと約7割の方が洪水を経験されているといったようなことがございいます。上流よりも中下流の方が洪水経験者が多く参加されていたといったようなことがございいます。

それで、「城原川は洪水に対して安全であると思いますか？」という質問です。全体で言いますと60%の方が「安全だとは思わない」という回答でございいます。それで、上流では、「安全だと思う」と答えた方が、ほかの中流域、下流域に比べて10%程度多いといったような結果でございました。

次に、「「安全だと思う」と答えた方はどうしてそう思いますか？」というような質問です。「最近水害が起こっていない」ので安全という意見が約50%ありました。中流域は、ほかの地区に比べて「堤防・護岸が整備されているから」安全だと思うという意見が非常に多かったという傾向がございいます。

次に、「「安全だと思わない」と答えた方はどうしてそう思いますか？」というような質問です。下流は「堤防が心配だから」という意見が多くございました。中流に行けば、「川の中に土砂が堆積しすぎたから」といったような意見が多くございました。上流に行けば、「川の中に草木が茂りすぎだから」といった意見が多くなってきているというようにございいます。全体的に「堤防が心配だから」という意見が多かったという結果でございいます。

次に、防災意識に関することに対する質問です。

「今年の7月4日の雨で、城原川の水位が堤防の高さの近くまで上がりましたが、その時不安を感じましたか？」といったような質問でございいます。約50%の方が不安を感じたということで、それとは逆に、「いいえ」、「水位が上がったことを知らなかった」ので不安を感じなかったと言われる方も50%ぐらいおられたということがございいます。

先ほど不安を感じたと答えた方にお尋ねしたことなんですけれども、不安を感じた方で「避難までは必要がないと思った」と言われる方が全体で約50%ぐらいおられたというこ

とでございます。中流域で見ますと、実際避難された方が若干おられたという結果が出ました。

あと、「避難までは必要がないと思った」方に加えて、「避難勧告がなかったから」と言う方が22%、あと「どれくらい危険なのかわからなかったから」と言われる方が約20%おられたと。

「Q6で「いいえ」と答えた方にお聞きします。不安を感じなかった理由を教えてください。」という質問に対して、「長い間水害が起こっていないので大丈夫だろうと思ったから」、「特に理由はないが、不安を感じなかった」と言われる方が合計で約70%ぐらいおられたと。それで、上流に行けば行くほど、「長い間水害が起こっていないので大丈夫だろうと思ったから」という結果がございます。

次に、「大雨や洪水の時に避難の目安になる情報はなんだと思いますか？」という質問に対して、「川の水位の情報」とか「雨量の情報」と答えられた方が全体の約60%ございました。こういったことから、わかりやすい情報の必要性が求められているということが言えるかと思えます。

次に、利用に関することに対して質問をさせていただきました。

「あなたは日頃、川をどのような目的で利用していますか？」という質問をさせていただいております。大体、上流、中流、下流、その利用に関しては余り差がありませんで、「散歩」で利用していると言われる方が全体の30%以上おられて、次に「釣り」とか「自然観察」で利用していると言われる方が多くおられました。

次に、「利用するうえで整備して欲しいことをお聞かせください。」といった質問でございます。「木陰」とか「散策路」、あと「水辺に近づくための施設」とか「危険を知らせる看板」の整備が求められているということがわかります。

「これから城原川をどのようにして利用していきたいと思えますか？」という質問でございます。先ほどの、今どういう利用をされていますかという質問に対する答えとよく似ている結果が出たんですが、「散歩」で利用していきたいと思う。次に「釣り」とか「自然観察」、あと「川遊び」なんかでも利用していきたいという声が多くございました。

「これからの城原川に望むことは何ですか？」という質問です。まず一番多かったのが、「洪水に対して安全な川」にしてほしいという方が20%以上おられて、次に「環境豊かな川」にしてほしいとか、あと「子どもたちが自然体験できる川」にしてほしいという方、あと「水のきれいな川にしてほしい」という意見が非常に多かったということでございます。

す。

今までのものがアンケートに対するまとめなんです、これは実際、地元の方に説明させていただいて、その場に出た意見を整理させていただいている表になるんです。

まず、ゾーン1、ゾーン2、ゾーン3で、下流域、お茶屋堰よりも下流、神埼橋よりも下流でお茶屋堰よりも上流、神埼橋よりも上流で直轄区間までのゾーン3の、下流、中流、上流で整備させていただいております。

一番下流の方から言わせていただきますと、下流優先でまず洪水に対して整備をやってほしい。堤防の嵩上げ、強化を行ってほしい。高潮のとき不安を感じる。あと、川にたまったガタ土の撤去をやってもらいたい。あと、降雨や台風時の城原川の状況を迅速に伝えてほしい。

中流にいきますと、下流優先で整備してほしい。あと、堤防嵩上げ、補強をしてほしい。あと、堤防の漏水の不安がある。川の中のガタ土、土砂の撤去をやってほしい。あと、危険水位の目安を現地でわかるようにしてほしい。

次に、上流にいきますと、人家が密集している上流優先で改修をやってほしい。あと、堤防の補強、中州の除去などをしてほしい。あと、堤防漏水の不安がある。川の中の土砂撤去、草木の除去をやってもらいたい。住宅もふえているので野越を上げてほしいという意見がございました。

まとめて言いますと、下流は、高潮に対する不安、あとガタ土の撤去、堤防の補強といった意見が多かった。中流は、堤防の補強、漏水などの意見が多かった。あと、上流部にいくと、堤防の補強、漏水に加えて、野越についての意見があったということでございます。各地区とも洪水に対する課題は異なっておりましたが、洪水重視ということで治水対策をやってほしいという意見が説明会では非常に多くございました。

次に、治水に対する意見が非常に多かったことと、もう一つ、利水に対するご意見も非常に多くございました。これも下流、中流、上流でまとめさせていただいております。

まず下流の方からいきますと、水量が少なくなっている、水を流してほしい。あと、取水樋管の漏水の修繕をやってほしい。中流にいきますと、水量が少なくなっている、水を流してほしい。あと、堆砂などの影響により樋管から取水できなくなっている。あと、城原川の水を環境用水としてクリークに流してほしい。あと、樋管の漏水の修繕をやってほしい。上流域にいきますと、流量を保ち、水利用が不足しないようにしてほしい。あと、堆砂などの影響により樋管から取水できなくなっている。樋管の老朽化の問題を行政も一

緒に考えてほしいという意見がございました。

次に、環境に対するご意見でございます。下流部ですと、水質をよくしてほしい。中流部にいきますと、環濠集落と城原川のネットワークを構築してほしい。魚がすめるようにしてほしい。上流部でも、魚がすめるようにしてほしい。あと、上・中・下流で水質をよくしてほしい。

どの地区についても水不足というか、利水に対する要望が非常に多かった。あと、樋管の漏水に対する修繕、水質の向上という意見も多くございました。全体的には水利用に関しても、上・中・下流それぞれと一緒に議論していくことが非常に大事なかなという意見がございました。

次に、利用に関する意見です。下流部ですと、ガタ土がたまり危険なので親水施設は難しいのではないかと。あと、親水施設をつくったら維持管理をしてほしい。昔のように川に触れ合うことができ、子供が遊べる川にしてほしい。堤防の上を車が通りやすいように広くしてほしい。あと、中流域ですと、既存の親水施設も活用されていないため親水施設はつくらなくていい。親水を施設をつくってほしい。昔のように川に触れ合うことができ、子供が遊べる川にしてほしい。堤防の上を広くしてほしい。あと、離合場所をふやしてほしい。あと、上流にいきますと、既存の親水施設も活用されていないため親水施設はつくらなくていいのでは。あと、昔のように川に触れ合うことができ、子供が遊べる川にしてほしい。堤防の上を広くしてほしい。あと、離合場所をふやしてほしいといったご意見がございました。

洪水対策が重要視されているためだと思うんですが、親水施設はつくらなくていいという意見がある一方で、昔のように川に触れ合うことができ、子供が遊べる川にしてほしいという意見もございました。

次に、管理に関する事です。まず、下流ですと、地域住民での維持管理は難しい。あと、除草を頻繁にやってほしい。ゴミのない川にしてほしい。中流にいきますと、地域住民で管理するのは難しい。除草を頻繁にしてほしい。上流ですと、除草を頻繁にしてほしいということと、ゴミのない川にしてほしい。

除草やゴミなど維持管理に対して要望はあったが、地域住民だけでやるのは難しいという意見が多くございました。

最後に、この地元説明会とかアンケート調査のまとめになるんですが、まず洪水対策に関してです。説明会を行ったほとんどの箇所において洪水対策をまずはやってほしいとい

う意見が非常に多くございました。下流地区においては、ガタ土の堆積に対する洪水の不安が非常に多かった。あと、中流地区については、土砂の撤去、漏水に対する不安が多かった。上流地区については、それらに加えて野越に対する不安の声が強かったということがございます。

あと、利活用と環境に関しましては、親水整備は行わず治水対策を優先してほしいという意見がありました。その一方で、アンケートでは、今後城原川を「子どもたちが自然体験できる川」、「散歩」、「自然観察」などができる川にしてほしいという意見が多くございました。

次に、説明会で多かった意見としては、昔のように川に触れ合うことができ、子供が遊べる川にしてほしいという意見が多かった一方で、いきなりは子供は川には行かないのではないかという意見がございました。こういったことから、子供でも安全に水辺に近づけるような親水施設の整備を行って、地域と一体となって、そういったソフト対策についても検討する必要があるのではないかと考えてございます。

利水に関しましても、要望というか、環境用水などが不足しているという声が強くなりました。こういったことから、沿川全体で考えることが今後必要ではないかということが言えるかと思えます。

次に、かわづくりプランについて触れさせていただきます。今後の進め方についてフローを書いております。今日は第4回目、1月11日、かわづくりプランについての構成ですね、目次のようなものについて検討をやっていただければと思っております。あと、第5回目を2月中旬に予定しておりますが、その間に子ども会議ですね。馬原先生の方で今進められているかと思えますが、子供たちの意見を伺って、それをかわづくりプランに今後反映させるようなフローになっております。最終的には3月中旬ぐらい、3月までにあと2回ぐらいやらせていただいて、最終のかわづくりプランの策定をやっていきたい。その後、どうやってかわづくりプランを実行していくかというアクションプランの検討に移っていきいたいというふうに考えております。

これは、かわづくりプランの構成の案でございます。城原川かわづくりプランとして報告書にして取りまとめをしたい。この報告書は、「城原川未来づくり懇談会」の中で取りまとめをやっていただけたらというふうに考えております。

構成の案ですが、まず一番初めに、はじめにというところがあって、次に、かわづくりプランの概要、城原川未来づくり懇談会について、あとプラン策定の経緯。3番目に、治

水対策の概要で、筑後川水系河川整備計画、あと城原川の治水対策について。4番目に、城原川の現状と課題、歴史および文化、治水、自然環境、河川利用について。5番目に、城原川かわづくりプランで、基本コンセプト、コンセプトの考え方、ゾーン区分、かわづくりメニューといったものを載せたらどうかというふうに考えております。

これは、じゃ、具体的にどういうものを載せていくのかという内容になるんですが、まず、はじめにところで、かわづくりプランの目的みたいなものを書いたらどうか。2番目のかわづくりプランの概要のところでは、城原川未来づくり懇談会についてというところで、懇談会の設立趣旨とかメンバーの方の紹介。あと、策定の経緯のところでは、地元説明会のスケジュールとか懇談会のスケジュール、あと策定までの流れを記載したらどうか。あと、治水対策の概要のところでは、整備計画に関する基本理念とか、城原川に関する記載事項、あと治水対策の目標、対策工事の内容、あと工事に関するスケジュールなんかを載せたらどうか。

次に、城原川の現状と課題のところでは、歴史および文化のところでは、治水・利水の歴史、クリークとか野越、お茶屋堰といった歴史。次に、治水のところでは、過去の水害の状況、28災の状況とか、これまでの洪水対策はどういうものをしてきたか。あと、自然環境のところでは、汽水域、淡水域の自然環境を載せたらどうか。あと、河川利用のところでは、クリークなどの水利用とか、あと川と人とのかわりに関する今と昔の状況といったものを載せたらどうか。

次に、城原川かわづくりプランについてですが、まず基本コンセプトを載せたらどうか。後でまたご説明しますが、コンセプトの考え方。あと、ゾーン区分、上流、中流、下流の各ゾーンの特徴とか、そういったもの。あと、実際、具体的にやるかわづくりのメニューですね、多自然型川づくりとか、立ち寄りスポット、リバースクール、こういうものはまた後でご説明しますが、そういったものを載せていたらどうか。

これは基本コンセプトです。第3回までの基本コンセプト（案）についてご説明させていただいたんですが、今回、地元説明会に入らせていただいて感じましたことは、地元の方から、まず洪水に対して安全にしてくれといった声が非常に強くございました。そういったところと、あと城原川に対して親しみを持っていただきたいといったところも踏まえて、「水と暮らすふるさとを守り・心を育む川づくり」といった大きなコンセプトにしてはどうかと考えました。「城原川はこれまでに幾多の水害をもたらす一方で、古くから草堰の取水により佐賀平野を潤し、また生活用水の一部や遊び・学び・憩いの場として利用

されてきました。これからの川づくりでは水害からふるさとを守るとともに城原川に対する心が育まれるような川づくりを目指します。」といった基本コンセプトにしてはどうかということでございます。

これも、前回まで3つの柱を説明させていただいていたんですが、大きく変わりましたのは、1つ目の治水のところは水と触れ合うということも前回までは入れさせていただいていたんですが、まずは洪水対策をやるというものを1つ目の柱として、「安全に暮らせる基盤づくりと地域防災力の向上」を図る。2つ目は、自然環境に対するもので、「自然豊かで多様な生物の生息空間の保全」をやっていくということ。3つ目に、「人と川とのつながりの再生」をもう一回やっていきましょう、こういった3つを達成しながら基本コンセプトを達成していきましょうという考え方でいったらどうかと。

これは、この柱ごとに簡単に説明を入れたらどうかというところで今回入れさせていただいたところなんですが、「安全に暮らせる基盤づくりと地域防災力の向上」というところで、まず河道掘削、川の中の土砂の浚渫や堤防の嵩上げ・拡幅、堤防を上げる工事とか大きくする工事、あと強化などの治水対策を実施し、地域の安全を確保する。

あと、地域住民と自治体、河川管理者の関係が協働し、洪水に対して安全な地域づくりを推し進める。

次に、「自然豊かで多様な生物の生息空間の保全」というところで、河川の整備に当たっては、豊かな自然環境と調和した整備を行うとともに、生物の良好な生息・生育空間の保全を図る。環濠集落など堤内側、川の外ですね、住宅側の生物の生息・生育空間とのネットワークを結び、地域全体での生態系の保全や生物の多様性を図る。あと、きれいな城原川となるように、地域全体の関心を高め問題に取り組む。

次に、「人と川とのつながりの再生」のところで、豊かな自然環境を生かした親水空間を整備するとともに、人々が城原川を訪れ、理解を深めるための仕組みをつくる。上流から下流まで一体となり、水利用のあり方に関して望ましい姿を検討する。地域住民や河川管理者などが対話を重ねることによって、魅力ある地域づくり・川づくりを実現する。

これは、具体的にその3本柱でどういった項目の整備をやっていこうかという一覧表なんですが、まず1番目の「安全に暮らせる基盤づくりと地域防災力の向上」の流下能力の向上というところで、川の中の浚渫、築堤などをやったらどうか。地域防災力の向上というところで、ハザードマップとか水位情報等の提供をやっていったらどうか。あと、まちづくりと一体となった防災対策というところで、災害に強いまちづくりを行っていく、そ

れで防災ステーションとか緊急避難路の設置などをやっていったらどうか。

次に、自然環境のところで、多自然型川づくり、浚渫をしたりする際に生態系に配慮した工法でやっていったらどうか。隠し護岸とかワンドの整備。あと、魚道の設置、堰なんかのところに魚が上れる道をつくっていったらどうか。あと、環濠集落やクリークとのネットワークを構築していきましょうと。

3つ目に、「人と川とのつながりの再生」というところで、水辺の立ち寄りスポットを整備したらどうか。その次に、上・中・下流に親水拠点を整備していったらどうか。あわせてソフト対策も行っていく。地域交流の場を整備したらどうか。自転車歩行者道なんかにも休憩スポットをつくっていったらどうか。あと、桜並木の整備とか学習情報板の設置、あとリバースクールをやっていったらどうか。あと、住民参加による維持管理なんかもやっていったらどうか。

以上が説明になるんですが、本日議論していただきたいということで、基本コンセプト、あとコンセプトの柱についてというのがまず1つ目で、次に、かわづくりプランの整備メニュー、先ほどの一覧表に対する整備メニューについて。次に、先ほどご説明させていただきましたかわづくりプラン報告書の構成についてご議論していただければというふうに思います。

(プロジェクトター終わり)

○座長 ありがとうございます。

今日は、事務局からの説明に続きまして、A委員の方から先に、今回地元の小学校にアンケート調査をされたということで、そのことについてご報告をいただけますでしょうか。

○A委員 第3回の懇談会が終わった後で、地元の西郷小学校に11月27日に行きまして、城原川の未来づくりということでやっておりますということで書類を持って行って説明をして、こういうふうなアンケートをつくって子供たちに回答をいただきたいということでお願いしたら、すぐ応じていただきまして非常にありがたかったです。それは先生たちに任せますということで教頭さんに言って、教頭さんが自分で、私が言った趣旨をそしゃくされまして、こういう4項目をつくっていただいて、とっていただいたと。

そして、対象は城原川流域、結局、西の右岸側になるんですかね、流域に住む旧西郷地区の生徒1年生から6年生までに絞ってやっております。それで、1年生とか2年生ではアンケートに答え切れないかもわからないということで、お父さん、お母さんに聞いていいですよということで、そういう条件をつけてとっていただきました。

それで、ここに24名、大体40名ぐらいからとったと思いますけれども、24名の回答が来ております。それで、先ほど事務局から、懇談会のアンケートの結果も出て、説明がありましたように、やはり大人を目線も子供の目線も大体一緒だなというような感じがしておりますけれども、そういうことで、せっかくここに立派な資料をつくっていただいておりますので、説明をさせていただきます。

ここに書いてありますように、小学校1年生から6年生までの児童によるアンケート結果ということで、まず城原川を知っているのかどうかということで単純な質問をしたところ、知っておるといのが23人、いいえ、知らないが、どういう意味で言ったのかは知りませんが、1人おったという数字です。

2つ目が「城原川のそばにこんな遊び場があったら楽しいなと思うものを教えてください。」ということで、ここに11項目ぐらい回答が出てきております。主なものを拾いますと、「夏休みに友達と泳げるような川にしてほしい」、「公園があったらいいな」、「川の生き物を観察できる場所」、「浅瀬をつくって水遊びができたり、すべり台から水の中に直接入れる遊び場がほしい」、こういうような回答が出ております。

それから3番目に、「いこいの水辺はどこに作ったらよいと思いますか?」。場所的な問題ですけれども、拾ってみますと、「ふるさと大橋の近く」というと日出来橋の上流ですか、ふるさと農道のところだと思いますけれども、あの近所。それから、「神埼橋の近く」、「協和橋と神埼橋の間がよい」、「利田の東のところに遊び場を作ってほしい」、「神埼橋の北側あたり」、「猪面の公園の近く」、こういう回答が出ております。

4番目は、「城原川が将来こんなふうになったらいいなと思うことがあれば教えてください」。「大雨のとき水があふれないようにしてほしい」、「桜の木を植えてほしい」、「フェンスをつけて、流れるプールみたいになったらいいと思う」、「魚や水鳥が増える川にしてほしい」、「たくさんの方が来てくれるようなきれいな水と花のある川」、「春は菜の花ロードだから、秋は秋桜ロードにして年中花いっぱい城原川にしてほしい」、こういうのが主な回答でございます。

だから、大人の意見とほぼ一緒だなというような感じもしますが、純粋に子供たちは、城原川をきれいにしてほしいとか、親しめる城原川にしてほしいという趣旨ではないかと思っております。親の知恵も入っておりますけれども、私は純粋にとってみたところでございます。

そういうことで説明を終わります。

○座長 ありがとうございます。

もう一つ、B委員から、現在の子ども会議の状況についてご報告いただけますでしょうか。

○B委員 現在の子ども会議ということで、まず意識調査の方をもとに実施しております。

(プロジェクター)

これは12月の会議が終わって、もう学期末でしたけれども、学校数、神埼市内全部ですが、小学校は7校です。一応これだけ、教職員の方にもとりました。担任をしている先生方の方に、一体どういう環境があればいいかということでとらせていただきましたので、総数は、今集まっているのは2,950ですかね、それで担任の先生たちが101しております。それで、質問の方はもう単純に、城原川をどう思いますかと聞いてくださいと。子供たちにいろいろ、未来をどうしたいですかとか、何をしたいですかとか、今どう思いますかとなると誘導になりますので、どう思いますかということで、ただし、条件を3つ出してください。日ごろ川をどのように思っているか、やってみたいこと、こんな城原川になってほしい、この3つを言って、どれを書くかは子供たちの選択に任せてくださいということでアンケートを実施しました。

私の予想としては、やってみたいことをいっぱい書くのかなというふうに思っていたんですが、ちょっと違っていました。今回は、申しわけないんですが、私の手元に今3,000幾らのデータが来ているんですけど、とてもじゃないけど今はまだ見切れずにあります。それで今回、小学校1年生、6年生、中学校3年生の約966名分のデータだけは何とか見ましたので、そちらの方をもとにちょっと紹介をしたいと思います。

一番長いこれですね、この「きれい」と書いているのは「きれいになってほしい」です。ここは「汚れている」、「生き物がふえてほしい」、「今のままでいい」、「その他」、あと、今の川を何とも思っていないというか、書いていない子供たちがこのぐらいいます。

それで、単純に考えると、いまさっきの汚れとか生き物がふえてほしいというのを考えると、きれいな川になってほしいという願いを持っているのが今分析したのでこのぐらいいですね。今のままでいい、今の川はきれいですよというのが40ぐらいいたかだと思いますので、それからすると、子供たちの大半、小学校1年生から中学生まで、きれいな川になってほしいという願いを持っているようです。

それで、やりたいこと、これがまた意外でした。「泳ぐ」、「釣り」、「遊ぶ」、あと「そうじ」というのはボランティアで掃除をしたいということです。無回答が断トツで多

かったです。川でやりたいことという項目に関することを書いていない子が非常に多かった。この思いを、小学1年生から6年生、中学校3年生というふうに見てみたら、さすがに1年生の場合は川に対する思いというのは余りないのかなという感じがしております。きれいになってほしいというのは、年齢が上がるほど見る機会が多いのかなという感じも受けております。

あと、やりたいこと。今度は逆に年齢が上がると、やっぱり圧倒的に中学校3年生はやりたいことの無回答が多いのに対して、1年生ぐらいが遊びたいと思っている、低学年の子ほど思っているのかなという感じがある。ただし、ボランティア関係になると、やっぱり学年がちょっと上がらないと出てこない発想かなと思います。それで、一応こちらでザッと見て、ほとんどの児童生徒は郷土の川、今単純に集計しているんですが、シンボルの川だから美しくあってほしいとか、みんなに自慢できる川であってほしいとか、いろんなことが詳しく書かれておりました。これを見て、ただし、何々してほしいが多い。主体的にボランティアでぜひきれいにしたいと書いている子たちは実際数十名しかおりませんでしたので、ゴミを拾ってほしいとかいう、今は何々してほしいという立場の児童生徒が多いと思います。

それから、川での活動については、現実感がないと言ったらいいんですかね、何をしたいかがわからない、本当にできると思っていないんじゃないかなという感じを受けています。結局、今の川が実際何もできないのと、川で泳いだことがないから泳ぎたいとか、釣ったことがないから釣りたいという表記等が多数ありましたので、やっぱり城原川自体に行ってみる機会が全くないんじゃないかなと。数十名の子たちは、行ったことがないのでという表記をしておりました。

それで、今後について、子ども会議の方で考えている分ですけれども、まず全部、3,000枚こっちにもらっていますので、その分析を今ちょっと打ち込んでデータベース化をしようと思って、児童生徒がどんな言葉を使っているとか、あと学校とか流域での格差もありそうなので、その辺も全部後で集計できるようにデータベース化をしようと思ってやっておりますが、なかなかどうして、ちょっと申しわけございません。

それから、先生方が挙げている学習条件というのも別個分析をして、どのようなことがあれば、学校の授業等で川に行ってみようという状況が先生たち生まれるのかというのも全部の先生方からとっておりますので、そちらの方も見ていきたいと思っています。あと、そのデータをもとに子供たちに純粋に意見を聞かせてもらおうかなと。最終的には、子ど

も会議なり、子供たちの発案、ボランティアをしたいとかいう中学生の意見や小学生の意見等もございましたので、何らかの形でそういった発案ができたらいいかなというふうに今考えております。

(プロジェクター終わり)

現状では以上のところまでです。まだちょっと3分の1にすぎないデータなので何とも言えないところなんですけれども、今後進めていって、またさらに報告ができたらと思います。以上です。

○座長 ありがとうございます。3分の1でもすごい数ですね。

ただいま事務局から説明が、それからA委員から小学校のアンケートの説明、B委員から子ども会議の状況のご説明がございましたけれども、今まで説明していただいた内容について何かご質問等がございましたら、お願いいたします。

○C委員 ちょっと質問ですけれども、ゾーン3、ゾーン2、ゾーン1という分け方のロット数、数は大体どのくらいの数に、平行して並べてありますものですから同じ見方をするような感じがしますので、数量がどのくらい、ゾーン3はどのくらいとか、わかりましたらお願いします。

○事務局 すみません、細かいのはわからないんですけど、大体それぞれのゾーンで同じ人数、だから、全体で286名ですので、100名弱、90何名ぐらいでゾーン1、ゾーン2、ゾーン3で分かれているというふうに思っていただけだと思います。

○C委員 ありがとうございます。意見は後で言います。

○座長 では、ほかにご質問はございませんでしょうか。

○B委員 この地元説明会の折にアンケート等をとられて集計されているんですが、これを回収されるときに、どう活用すると言って回収されたかを教えてもらっていいですか。結局、それを施策に生かして行って実現するというふうな形で言われているのか、単に意識を聞かせてほしいということなのか、それとも何も言わずに、ただアンケートをお願いしますと言って配布された結果なのか。

○事務局 今のですと3番目に近いのかなというふうに、特にこういった目的でということをきっちり説明してアンケートを配布させていただいたわけではなくて、受付のとき、来た方々に、アンケートにご協力をお願いしますという形で配布させていただいております。かわづくりプランの説明会ということでありましたので、書かれた方は、恐らくそのかわづくりプランそのものじゃなくても、今後の河川整備なりに反映されることを期待し

て書かれているのではないかというふうに思っております。

○座長 では、私からも1点。地元説明会でのアンケートで、複数回答というのはありにしたんですか。

○事務局 はい。アンケート用紙をお配りしているかと思えます。この両面の城原川に関するアンケートというものですけれども、裏面の方を見ていただきますと、利用に関すること、また、これからの城原川についてというところにつきましては複数回答を求めているところ、また、3つ以内で選んでください、そういったような形でお聞きしているところもございます。

○座長 そうすると、それぞれの回答について実際の数というのがどのくらいかというのはいわかりませんよね。

○事務局 事務所としましては、そういった形で集計させていただいていないので、またそれは改めてご報告できればというふうに思っております。

○座長 わかりました。ほかにございませんでしょうか。

A委員がアンケートをとられた西郷小学校というのは右岸側のどこら辺にあるんですかね。

○A委員 そうですね、協和橋からどのくらいあるかな。

○B委員 1kmちょいはあるかもしれんですね、線路沿いにあるんですよ。

○A委員 1km300くらいあるかな。

○B委員 1kmとは言わんでしょ、1kmよりあるでしょうね。

○A委員 1km以上あるでしょうね、私も子供と一緒に歩いて結構かかりますもの。

○座長 そうしたら、そこに行っている小学生というのは、城原川はかなり遠いんじゃないですか、そうでもないですか。

○A委員 大体流域の子供を選んでしてもらっているから、城原川には近い子供ですけどね。だから、小学校付近の子供は対象にしていないんです。

○座長 わかりました。

ほかにご質問等はございませんか。では、質問がないようでしたら、先ほど事務局から最後に説明していただいたかわづくりプランのところ、こちらの方にちょっと入りたいと思います。それで、かわづくりプランというのを今後ずっと議論をしていくことになっているんです。基本コンセプト、コンセプトの柱、かわづくりプランの報告書の内容、構成等について事務局から最後に説明していただいたと思いますけれども、これについて議論

をしていきたいと思っています。

事務局から説明していただいた資料でいきますと、29ページ、今後の進め方についてというところで、今日はかわづくりプランの検討（構成の検討）と書いていますけれども、これが次のページに、かわづくりプランの構成としてこんなふうなものにしてはどうかというところで、その中身がずっと書いています。目次等が書いていますけれども、その後に基本コンセプト（案）というのが事務局から出されていて、「水と暮らすふるさとを守り・心を育む川づくり」ということで文章を書いています。

コンセプトの柱として、これは今まで見てきたと思いますけれども、3つ柱ございまして、「安全に暮らせる基盤づくりと地域防災力の向上」、「自然豊かで多様な生物の生息空間の保全」、「人と川とのつながりの再生」という3つの柱ですね、それぞれの柱の中身というのがその後にそれぞれ詳しく書かれて、それを全部まとめたものが39ページに書いてあります。これは今まで見てきたものだと思いますけれども、これはもうちょっとこうの方がいいんじゃないかとか、あるいは、これをつけ加えた方がいいんじゃないかとかいうこともあるかと思います。どうぞ。

○B委員 今まで見てきていたと思うんですが、この基本コンセプトですけど、「水と暮らすふるさとを守り・心を育む川づくり」というのは、ふるさとを守るのも心を育む川をつくるのも地域の人というふうにとらえていいですか。それとも、「を」が2回連続すると、そこで一回「を守り」で終わって、そして「心を育む川づくり」というふうに読み取れると思うんですよ。そうすると、水と暮らすふるさとを守るのも地域の人で、心を育む川をつくるのも地域の人とあっていいのか、それとも、この川がふるさとを守ると心を育むにかかっているんだとすれば、表記を変えた方が、ちょっと誤解を生むかなと思ってはいるんですけど。一番大きな基本コンセプトなんですが、それとも、これが地域の方に呼びかけている言葉であればこのままでいいんですが、下の文を見ると、「川づくりでは水害からふるさとを守るとともに城原川に対する心が育まれるような川づくり」と書いてあるので、違うのかなと思うんですが、いかがでしょうか。

○事務局 ここで書かせていただいた趣旨としましては、川づくりをするに当たって、その川づくりが、河川管理者だけではなくて、地域の方々と一緒にやっていくということがあるんですけども、洪水に対して安全であるとか、またその日常生活を維持するといったような、ふるさとを守るような川にできるような川づくりをするということと、そのふるさととか地域、川に対する心を育んでいけるような川づくりにしたいということを考え

ております。ということで、ご指摘では、並列になっているものですから誤解を生みやすいということかと思いますので、その辺は表現を修正するなり検討したいというふうに思っています。

○座長 ほかにございませんか。

○C委員 今日いろいろとお話をさせていただきましたけれども、前回まで、この城原川未来づくり懇談会というのが既に3回されておりますけれども、何かまだこの懇談会自体が具体的に何を目指しているのかというのがちょっとわかりにくく感じております。今日ちょっとプランを出していただきましたので、ある程度こういうものかなと。逆に言えば、今日、これからがスタートかなという感じになってきております。

それで、最初に川づくりのやり方を3つほど出されまして、例えば城原川について河川整備のイメージを示したかわづくりプランの作成とか、そういう話をずっとされましたけれども、この辺に関しましても、じゃ、この中でどういうキーワードがあるのかとか、そういうものもなかなかわからない。要するに、イメージばかりに走り過ぎて、具体的なことが全然話し合われていないということを感じておるわけです。その中でもまた、今までの中では、例えば管理区間といいますかね、国の大臣の管理区間に限定された利活用についての話題がほとんど中心になっているのではないかと。

それで、私は、この懇談会自体が、実は中期的な整備計画の中で非日常的な、要するに洪水みたいな部分として、治水上この川が受け持つ洪水流量に対して安全・安心の治水機能を地域住民が十分に認識することを根底に、やはり整備計画が完了するまでの期間の住民行動、あるいは計画流量以上の流量に対する行動計画ですね、これの基礎資料になるのではないかと、逆に言えば、するべきじゃなからうかと思っておるわけです。と同時に、日常的には、要するに環境的にも、生物の多様性とか、自然環境の整備とか、生活環境の整備とか、生活環境の改善とかの面で、河川と地域一致の関連性というものを再構築していくところじゃなからうかと。ですから、川にとって地域がなかなか今まで、何と申しますか、親しみがなかったというところが、それを改めて、こういう形のイメージづくりの中で計画をしていかないといかんのではなからうかと思っております。

ちょっと言いにくいんですけども、私、この前から環濠集落のことばかり言っているんです。この図面にもありますけれども、かなりの環濠集落がありまして、それとの関連性を点線でずっと書いてあります。この点線は何かなと思っているんですけども、要するに、環濠集落というのは、もともとは城原川の一つの水系であるわけですよ、水をつ

けたおかげで今まで、集落の中の水が流れて来ないとか、そういう関係になっておるわけです。そういうことをやはりある程度、利害の対象にならないような公共的な水の確保なんかも同時に考えていく。要するに、治水と利水と環境を上手にバランスをとっていくという考え方を具体的に話をしていかないと、なかなか先に進まないのかなと私は思っております。意見です。

○座長 今からが議論のスタートだということで、もうちょっと具体的などころにも突っ込んで話をしていきたいと思っていますけれども。どうぞ。

○D委員 ちょっと似たような意見になるのかなと思うんですが、私は生態系の方でこの会に参加しているのかと思っているんですけども、この城原川には現在どんな自然があるのか、それから過去にどんな自然があったのか、その辺の細かなデータが実際どの程度あるのかなというのが、ちょっとまだ私の方で把握ができていないということ。それから、将来どういう自然をここにつくりたいと思っているのか、それをちょっと議論するのかなと思っているんですけども、実際にこの委員会で具体的なものをどこまで検討していくのか、ちょっとその辺が私も見えないんですよ。だから、なかなか意見が出しにくいというようなところが私もありまして、ただコンセプトをつくるだけなら、非常にいい言葉が並んでいますのでこれでいいと思うんですが、じゃ、具体的に、堰はどうするのか、魚道はどうするのかという話までこの委員会で踏み込むのかどうか、もしその辺の見通しがあるんだったら教えてもらいたいんですけど。

○座長 河川の生態系の調査というのは、たしか全国で何年か前になされたときに城原川もされたんでしたかね。

○事務局 城原川につきましては、直轄管理区間において一体的にというか、全川にわたって環境の調査、生き物の調査とか植物の調査をされたものはございます。水辺の国勢調査と我々は呼んでいますけれども、そういったものでされたものがございます。ただ、今言われた過去の環境がどこまでわかっているかという、なかなかデータがないということがあるかと思えます。前回までの懇談会とかでお示した地図の中に、どういった生き物がいたかということプロットさせていただいていたところで、そういった情報はございます。

そういった中で、どこまで具体的に今回の懇談会の中で議論していくかということがあるかと思うんですけども、今年度というか、先ほどC委員が言われていましたように、ようやく議論が始まったというようなご意見もある中で、短い期間の中でできるところと

いうのは限りがあるかと思っております。まず段階的に進めていくのかなと思っております。かわづくりプランの最初の一步として、コンセプトとか、今日説明させていただいたそのコンセプトの柱とか、それに伴う整備メニューのイメージといったものを議論していただいて、その後にもまた具体的に、それぞれのメニューについて、それぞれの問題についてどうやって進めていくのかということの議論というのは今後必要なのかなというふうに思っております。

○座長 やはりこの城原川ということを考える委員会ですから、個別のいろんな具体的なことを考えないと、この委員会の存在意義はないと思うんですね。ですから、堰の話とか、いろんなことをやっぱり考えないと、そこの固有の生態系の話までいかないと思うんですね。そういうところまで突っ込んだ話にしないといけないと思います。

それともう一つは事務局への要望です。今日非常に分厚い資料をお配りいただいたんですけども、できれば委員会の何日か前ぐらいまでにこれを各委員に配付していただくと、もうちょっといろんな細部にわたるところで深い議論もできるんじゃないかなという気がしているんです。私自身は何日か前にこの資料をいただいたんですけども、ほかの委員の方はいただいているんじゃないかなと思うんですね。そういうのは、もしできましたら、次回以降そういうのがあったら少し改善できるのかなという気がしていますけれども、要望です。

○E委員 私も、C委員、D委員がおっしゃったように、この会がどういう位置で、どういうことを話し合うのかというのがいまだにつかめないうえ、最初に伺ったときは5回で終わるようなお話で、5回で何ができるんだろうと思っていましたら、今日いただいた資料では7回のアクションプランの検討のところまで書いてありますが、どういう着地点を目指してこの会が進められているのかというのは本当に知りたいところです。例えば、7回のアクションプランの検討を行った後どういうふうな方向に行くのか、河川管理者の方々の方向と、それから地元の住民の意見の反映というものがどういうふうに合流していくのか、何かつかみづらいところがありまして、具体的にもう少し聞きたいなと思います。

○事務局 正直言って我々も手探りでやらせていただいているところはあります。始まるときにも申し上げましたけれども、河川整備計画という形で去年の7月に一応、これはもう水系全体で、城原川というのは一つの支川の流域ということで、そこで骨格の20年、30年後、ここまでやりましょうという、その大枠は一応、河川法という法律に基づいて策定

されたわけです。

問題は、大きな筑後川の水系なものですから、実際、計画には非常に包括的なことしか書かれていません。具体的にどこの堤防を嵩上げするかということについては書いてあるんですが、さらにそれを、まさに今回いろいろとご議論をいただいている、こういう治水面とか、利水面とか、環境利用面とか、どうバランスして、それを現地でどういうふうに進めていくのかということですね。そこの地に足がついた議論をローカルにやろうというのがこのかわづくりプランというか、この懇談会のスタートということだと思います。

全体で、やはり川というのはいろんな役割と言うんでしょうか、機能を持っていますので、それから城原川は非常に細長い流域でもあります。そういう意味で、内容的、地域的にも全体でのバランスがとれた議論と言うんでしょうかね、全体的に見通した議論をやはりこの場でご意見番というか、いろいろ出していただいて、そういうバランスのとれた計画づくりをスタートさせようというのがもともとの趣旨です。ただ、たまたま7月に集中豪雨がありました、その後、高潮がありました、今、災害復旧の工事も現地で既に始まったりしているわけです。これは去年の工事とか今年の工事とかがあるんですが、ちょっと走りながら考えざるを得なくなっている部分もあります。

ただ、ご指摘のように、これから城原川に一定のそういう河川の整備ということで手が入っていくことになりますので、これは100年の大計というか、30年の大計というか、地元の方々のいろんな声に耳を傾けて、みんながみんな同じ意見ではないものですから、そこをやはりちゃんと、闘わすべき意見は闘わせて、方向を見出しながら一步一步歩いていく、そのための一つの議論の場としてこの懇談会を設定させていただいているというのが我々の感覚です。だから、どこまで深くやっていくかですね。

例えば防災を一つとっても、警戒避難体制をどうするかなんていうことになったら、これは至って行政的な話ですし、また行政だけじゃなくて、住民の方にも認知していただかないと行動に移らないという話もあります。だから、防災なんていうのは、防災だけでも深く取り出して、特にソフト面なんかは取り出して、別途、一步一步、出水期ごとにレベルが上がっていくような対応を並行してやらなければならないかと思っています。

それから、環境の面なんかも、今ご指摘のように、これから川に手を入れていったとき、特に生態系との関係でどう調和を図っていいのかというような問題なんていうのは、これはまたモニタリングというか、走りながら考えて初めて、自然の営力と我々が手を入れるのがどう反応していくかということですね。そんなものをやはり長い目で、専門的な

見地も入れながらやっていかなければならないと思うので、これもすべてこの懇談会で、そういう個別の分野を深くカバーするというのは事実上困難だろうというふうには思っています、やはり全体の議論を総括的に見ていくというか、まずは今、この計画の大綱と申うんでしょいかね、その骨格なり、中身としての漏れ落ちがないかということで、全体のバランスがとれた計画の構成を、この懇談会の中で知恵袋となっていただいて、まずは立てていくということが第一歩かなというふうに思っています。

並行していろいろな事業が進んだり、また洪水が起こったりとか濁水が起こったりして、いろんな出来事なんかを見ながら軌道修正をするなり、つけ加えていくなりということ、恐らく今この全体計画で、年度末まで7回ぐらいの懇談会というようなフローが出ているんですが、来年度以降もどういう形でしていくかですね。例えば、かわづくりプランがある形でまとまったとしても、つくったきりという話ではいけないと思いますし、今申し上げたように、刻々と事業が進んだり、いろんな出来事があつたりというふうな情勢も変わっていくと思うので、そういうのをフォローアップすることも含めてやはりちょっと考えていかなければならないと思っています。またその辺の進め方と申うんでしょいかね、この懇談会の位置づけとか内容の程度も含めて、次回以降もう一度具体的にお示しして、それで進んでいきたいというふうに思っています。

正直言って、まだぼんやりしているところがあるというのは、皆さん、ここまで議論が進んできて疑問をお持ちになっているというのは、我々自身も最終的に、別にかわづくりプランをつくるだけが目的だとは思っていません、本当にいい川になっていくということが大事だと思うので、その中でこの懇談会をどう位置づけていくということは、もう少し我々としても考えながら進めていきたいというふうに思っています。

〇〇委員 僕らはそういうふうな、例えば川のいろんな、我々ができないような難しい問題を話していく問題じゃないかと思っておるんです。実は利活用の問題もそうなんですけれども、利活用はある程度安全・安心の意識を皆さんが持って初めてスタートできるんじゃないかなろうかというふうな思い方をしておるわけです。ですから、安全・安心の意識が得られてスタートする、その辺のことを皆さんにやっぱり認識していただきたいなど、逆に言えば、まずそれを思っておるわけです。

一つの方法として、例えば今 $330\text{m}^3/\text{s}$ を目標に堤防が整備されるということですので、それに対して堤防が、現状は $240\text{m}^3/\text{s}$ の河道断面が確保されていると、その中で堤防が安全に確保されていない部分があるのかとか、 $330\text{m}^3/\text{s}$ における整備はどの程度されるのか、

そういうふうなことを本当は聞きたいなど。例えば、浚渫土砂がどの程度あるのかとか、浚渫土砂はどう処理されるのかとか、あと、図面を見ますと、お茶屋堰から上を浚渫するような形になっておるわけですね。そのときにまた、現状の生態系等の評価、あるいは草堰をどうするのかとか、まずその辺からスタートして考えていった方が一番わかりやすいのではないだろうか、逆に言えば思っているわけです。ご意見はいろいろとあると思いますけれども、そういうふうな、まず意識として安全・安心というものを皆さんの意識の中に持っていただいて、それから利活用をスタートした方がやりやすいんじゃないだろうかというふうな思い方をしております。

○座長 今日アンケートで余り詳しく説明されませんでしたけれども、実はもうちょっと詳しいアンケートの資料がございまして、それを見ると、やっぱり城原川の上流と下流の人たちが一緒に話すような場というのをつくってほしいとかいうのもあったんですね。そうすると、水がなかなか上から下流に流れてこないという話とか、野越の問題であるとか、ああいうふうなものは全部、上流と下流の話し合いがうまくできていないからというのも一つ原因としてあると思うんですね。そういうふうなところを何か、流域で上流・下流が一体となったような議論の場をつくっていくようなものというのも何かこのかわづくりプランの中に入れたらどうかなという気がしているんです。

○E委員 それから、先ほどのお話で、7回でどうにか形ができて、その後はまだ手探りということで伺ったんですが、コンセプトの中の、C委員もおっしゃったように、安全というものがやっぱり私たち流域では一番意識が高いし、そのことを物すごく重要に思っているんです。3つの柱として、「安全に暮らせる基盤づくりと地域防災力の向上」という柱が一番最初に出ていますが、その中での流下能力の向上というところがあります。330m³/sの流下能力がある川にするということが流域委員会の中では最適だというふうな結論で、そういう河川整備を目指しているということを認識はしています。

そうなんです、去年の2つの災害をずっと私なりにいろいろと調べたり見たりしている中で感じたことなんですけれども、7月4日の豪雨ですね、1時間当たりの雨量が67mmだったですかね、そういう降り方をしたときに、神埼橋下流あたりがかなり増水して避難勧告を出すか出さないかというくらいまで危ない状況だった、それは排水もあったかもしれませんが、とにかくそういう危険な状況だったんですね。下流はそれほど増水しなかったんですね、危険を感じるほどは。それは何でかなと思っていたんですが、やっぱり天井川という城原川の特徴があって、その天井川部分で水がぐずぐずしてくれたおかげで下流

には同じような増水がなかったというふうを感じるんです。

それで、同じ年の9月16日、17日ですが、これは台風13号だったのでしょうか、16日は伊万里でも災害がありましたし、物すごい雨でした。ところが、17日、台風が直撃に近いような状態で来たときは雨は全く降りませんでした。にもかかわらず、下流の柴尾橋の付近に住んでいらっしゃる方は、川を見てギョッとしたり、ここに住んで初めてあんなに水がふえたのを見たというふうにおっしゃっていました。それで、土手の一番上から下まで1mないぐらいまで水が来ていて、雨が全く降らないのにですね、恐らく満潮とか低気圧の問題、それから風の吹き上げ関係で有明海から高潮が来たのだと思います。そのとき、同じときですが、今度は大野島の方の河川のそばに住んでいらっしゃる方ですが、この方は、川の水が膨らんで家の中にどんどん入ってきた、これも初めてのことだったと。数年前から高潮の関係で水が道路まで来たり家の近くまで来たりするようなことがあったけど、家の中までどんどん入ってきたというのは初めてだったということをおっしゃっていました。下流域は、やはりこの高潮に対する警戒感、怖さというのを非常に持っていますし、実際怖いものだと9月につくづく感じました。この2つの現象、7月4日の雨と9月17日の現象がぶつかったときには恐らく千代田町は壊滅的なことになったんじゃないか。

それで、考えるところ、私は野越にとってもこだわりますけれども、中間の天井川であるということが、下流域にはとても助かる部分として、一気に水が流れてこないということがとても負担を少なくしてもらっている一つの要素じゃないかなと思います。それで、330m³/sという流下能力を天井川部分で一気に上げて、上からの水、洪水を一度に短時間に下流域に流していくことが本当に治水面で安全なものだろうかということ去年の2つのことで考えました。それで、今240m³/sぐらいの流下能力と言われていますが、それがもし330m³/sになって、本当に1～2時間の間に下流に来たとき、それと高潮とぶつかったとき、下流域はどうしたらいいのかなという思いがあります。

それで、城原川というのは、もともと山から海まで短いし、さまざまな表情を短い期間であらわす川だと思います。だから、山、扇状地、平野、下流域、それぞれの違う特性を持った災害が起こるんじゃないか。それに対して、そのそれぞれの地域で、自分たちで引き受けていたような災害の対策をしていたんじゃないか、そういうものを一度に下流域に集めてしまってもいいものかという疑問を持っています。流下能力330m³/sというのは流域委員会では決定したことです。それに対して、本当にそれでいいのかということをもう一回私は考えているところです。専門の皆さんですので、河川管理の方々はそのようこ

とは百も承知だとおっしゃるかも知れませんが、あえてそういうことをお話ししました。

○座長 私からも、治水に関しては、コンセプトの柱というのがございますけれども、流下能力向上というだけではちょっと不十分な感じがしています。堤防が安全であるということをもまず第一にやってもらいたいと思っています。当然、越水とかをした場合には破堤というのが可能性としてございますので、まず安全な堤防というのがあって、流下能力の向上ということ、それから河道掘削、築堤など書いていますけれども、できれば今残っている野越の活用というのも少し考えていいんじゃないかと。それで、上下流の一体とした流域の防災みたいなものを、これは水害だけじゃなくて、いろんな災害に対して地域が安全になっていくための安全弁みたいなものを考えておく必要があるんじゃないかなと考えています。

それから、2番目の自然豊かで多様な生物の生息空間の創出のところなんですけれども、ここでも多自然型川づくりということで、魚道とか、環濠集落とかの話が書いてありますけれども、これの前提となっているものはやっぱり水量と水質の確保なんですね。ですから、目標としては、きれいで豊富な水が流れる川づくりみたいなものを挙げてもらいたいなと思っています。そのためには地域の水利用形態というのを見直して、絶え間なく地域を流れるような水辺環境の創出みたいなことを地域で考えていく必要があるんじゃないかなと思っています。ですから、これは当然、川の中だけの話ではなくて、流域全体で考えるような仕組みというのを考える必要がある、そういうことをちょっと2番目のところにも入れていただければと思っています。

それから、3番目のところの桜並木の整備のところも、今まで議論がありましたように、桜じゃなくてもいいんじゃないかという話もあって、昔のアンケートを聞くと、イチョウとかハゼとかいうのもあったという話もあったし、この間、D委員からはヤナギなんかがいいんじゃないかという話もあったので、この辺も検討したいと思っています。

○B委員 基本コンセプト等の中でちょっと気になっているので。今いろんな先生方からお話があるんですけども、例えば基本コンセプトで先ほど言いましたが、その下の部分にも、今、座長もおっしゃられたんですが、今というのが意外と書かれていないような気がするんですよ。昔はどうだった、それでどうしていくということで、普通、目標というのは、例えばその次にコンセプトの柱の案というのが3つ書かれております。この逆を考えると、じゃ、今これはないのかな、こうしますよということは今ないよということですから、そういうふうに短絡的じゃなくて、今言われたように、もっと、ここはある

けど、ここはないというふうな部分というのがコンセプトの中には入れられないのかなど。流れる流下量とかはわかりませんが、自然豊かかとなったときに、今はこういうふうな自然体系になっていますよというふうな表記があるんですが本当ですかと、昔こうで、今こうなったから、こうしていこうとするのがコンセプトじゃないのかなと、今を受けてですね、何かそういう感じがするんですよ。それで、そういった部分がもうちょっとコンセプトの中に出していけないのかなという気がします。

それともう一つ不安なのは、先ほど子ども会議等のことでは申しましたが、子供たちもこれから、多分、川が完成するまでずっと川の流域で過ごして、生活して、かかわっていくでしょう。今回アンケートをとって久しぶりに川のことを考えたとかいう子供たち、中学校の生徒たちもいました。その子供たちは、結局、この懇談会が解散したらもう二度と川のことを考える機会というのが与えられないのか、それとも、ずっと情報提供等は、こうやって始まったからには、このコンセプトを生かした情報提供というのが長いスパンで行われていって、していくものか。結局、地域の人が見て、していくためには数年かかると思うんですよ、ずっと。一回川に連れていったからずっと川を親しく思うんじゃないかと、少しずつかかわっていく中でというのがあると思うので、その辺のところもちょっとお願いをしたいなという感じがいたします。だから、懇談会をずっととかじゃなくて、その地域に住む人たちへの情報提供とか、こういうふうになっていっている、こうだということをやっぱりある程度のスパンで示していく方向性もコンセプトの中に入れていただけないかなというふうに思っています。

○座長 ほかにございませんでしょうか。F委員。

○F委員 私は、城原川の一番下流の蓮池に住んでおります。さっきE委員がおっしゃいました高潮のことが我々が一番気にかかることとございます。今おっしゃいましたように、蓮池が一番下流でございまして、八朔（八朔（はっさく）とは八月朔日の略で、旧暦の8月1日のこと。）のときには、今おっしゃったような種類は何でも経験しているんです。ですから、今後、川をお考えになっていただくときには、ぜひそういうことを念頭に置いてお考えいただきたいというぐあいに考えます。

それと先月27日、佐賀には、今おっしゃいましたけれども、水対策市民会議という30年近く続いた組織がございまして、これをもう少し広げて、大きくなった佐賀市の自治会長さんを中心にした水のことを考える意見の交換をしようよという副知事さんの主催で初めて先月の27日にやったわけです。その折に、嘉瀬川の上流から下流まで、やはり城原川も上

流から下流までそれぞれ趣が違いますよね。そうしますと、北川副付近の方たちは、今、E委員がおっしゃいましたように、高潮のことが心配だということから意見が出ます。すると、またその逆に、それを利用したアオの取水ということを考えなくてはいけないのではないかということになってきます。そうしますと、今度は、やはり井堰の管理というものがついてきますので、そういうものまで本当に真剣な話し合いができたわけですけども、これは毎月1回やろうよという約束を副知事さんとやったわけです。それで、その折に、私がこの城原川のことを副知事さんに申し上げたら、その資料をちょうだいよと、そして将来はこの城原川を、この組織と、それから佐賀市の大きなものと、将来は有明海まで含めた話し合いをするべきだから、さっきちょっと市役所さんにも報告しましたけれども、グローバルな面で考えていくことも考えてほしいということ副知事さんがおっしゃいましたことをご報告申し上げます。

○座長 ありがとうございます。そのほかはございませんか。

基本コンセプトの案で、私、少しひっかかったことがございまして、一番最後の文章で、「城原川に対する心が育まれるような川づくり」というのは何かちょっと変な感じがするんですね。城原川というのを通して豊かな心とかが育まれるようなというのだったらいいんですけども、「城原川に対する心が育まれるような川づくり」というのは何かちょっと変な感じがするんですね、これはもうちょっと書き直した方がいいんじゃないかなという気がするんです。

そのほかはございませんか。今日ご発言がなかったG委員、それからH委員。

○G委員 実は、神埼市の新年の年始交歓会で、市長さんからちょっとご説明がありまして、従来、城原川についての改修の予算が大体3,000万円ぐらいについておったと。今回のことで大幅に予算がついたという話がありまして、4億1,000万円ぐらいついたという話があったものですから、ちょっとその辺を確認したいなと思います。

○事務局 4億というのは、何で4億かはわかりませんが、何でしょうか、河川の改修というか、河川を工事するときの予算の出どころがいろいろありまして、いわゆる整備計画が去年できましたのでということで、その初年度で3,000万円という予算は、城原川で改修するということにもともなっていました。先ほど来話に出ています7月の集中豪雨で城原川は危なかったということで、ところどころ河岸が削られまして、その関係で災害復旧とか、あと災害関連という、いわゆる復旧はもとに戻すだけなんですけど、もとに戻すのをさらによくする、再発防止のためによくするというふうな予算も含めて、1億円、1

億円で2億円ぐらいの予算が18年度から19年度にかけて追加されています。これは、年度当初は予定していなかった7月の災害への緊急対応という予算が追加されておったりというのがあります。

それから、今現地でやっている工事、目に見えている工事は、17年の夏にあった出水というか、洪水への対応の災害復旧の工事が今2年目で進行中というのがあります。ということで、それらが混然一体となって、それで4億円なのかどうか、ちょっと正確な数字は私も今即答しかねますが、大体1億円、1億円とか、そのぐらいの金が積み重なってのことだと思います。

今、正直言って、国全体の予算も非常に厳しくて、どうも災害後追い型じゃないと予算がつかない、予防型の予算が非常に苦しい状態です。そういう意味でも、先ほど言われた流域での治水とかソフト対策というようなものも前面に出してやらないと、川の器ができないとだめとか、ダムができないとだめということで、それを待っていると、災害は待ってくれないという問題が非常にありまして、たまたま去年は災害というか、洪水、まあ、大災害というか、浸水まではほとんどなかったわけですけれども、川の中の復旧工事なんかが出てきたので予算が追加になって、億単位のお金になったというのが現状です。これは19年度も、当初予算なんて言われると、18年度と余り変わらないぐらいの予算しか、国会はこれからですのでまだ予算はわかりませんが、そう期待できないのではなからうかということで、非常に厳しい状況が続くと思います。

○座長 それと住民へのアンケートで、今までの河川の改修工事で上流から工事をやってきたからとか、下流から工事をやってきたからということで、途中で、神埼橋あたりのどこかで氾濫が起きたとか、そういうことを書かれたことがあったんですね。だから、どういうところから工事して整備していくのかということもあると思うんですね。今一番危険なところというのはどこかということも質問があったと思うんですけども、そういうところから工事していくということも必要でしょうけれども、それと同時に、今後大きな出水が起きたときのことを考えて、どういうふうなところから優先的にやっていくのかということも、もしこの場でご説明いただければありがたいんですけども。

○事務局 これもたしか1回目か2回目かなんかに載せていませんでしたかね、改修の順番とか。そこまでしていないんですかね。

○事務局 まだしていません。

○事務局 それは先ほど来話に出ています河川整備計画で、今の川の能力が240m³/sぐら

いのを $330\text{m}^3/\text{s}$ に上げましょうという、それをどういう手順でやるということについては、あらかじめ我々としての考え方は持っています。それで、現に先ほども予算が追加になったというお話とかを申し上げましたけれども、まずは、これは7月の出水のときにも一番危なかったというか、水位が上がって堤防を水が越えんとした場所がどこかというところが一番危ないところなんですよ、今の上の器だけを見たときには。そういうところから川の水流る能力をアップするために川を掘るという工事を当面やろうと。それは、旧神埼・千代田の町境のあたりが一番ネックだということはわかっているわけで、そのあたりを安全にするところから着手するんですけども、先ほど来ご指摘があった、例えば下流の方は高潮に対して堤防の高さがまだまだ足りないとか、堤防がやせているという現実があります。

恐らくアンケートでも堤防に対して不安を感じられている方は下流の方が多いというのはそのあらわれだと思っていまして、先ほどE委員がご指摘になった9月の高潮は、ともすれば、我々が一番怖かったのはやっぱり一番下流なんですよ、佐賀県側で言えば、川副とか、今佐賀市に合併しましたが、旧諸富、あの辺の諸富川とか早津江川沿いのところが危なかったという現実がありました。だから、高潮はまさに海の水が川の水の方へ入り込んで、遡上して、水位が全体に上昇していきますので、当然海の水の影響というか、潮位の影響する川は全部水位が上がったんですよ。だから、城原川の下流の方が水位が上がったという事実は余り論じられていないというか、世の中の人も限られた方々しか知らない。さらに言えば、筑後川の本川でも、筑後大堰まで高潮はさかのぼったんです。これは我々も非常にびっくりしました。筑後大堰の下流の方が上流よりも水位が高いという事態が起こっていましたが、高潮のピークのときはですね。

そういう事実関係なんかもお知らせしてもいいと思っていますが、そういう意味では、下流の対策ですね。高潮の場合はダムで調節するということではできません、来たものは受けなければならないわけです。そういう意味では、やはり堤防を高くするとか、強固にするとか、あるいはそれを上回るような高潮であれば、もう水際の対策しかないですね。これは土のうを積むというふうなハード的なものか、あとは避難ぐらいしかないと思います。特に台風が来るとかという、9月のときもそうですが、南海上から台風が九州直撃、有明海直撃、それもああいふ西側を通して危険なコースだなんてわかっていた場合には、ある程度の時間的余裕を持ってそういう危ないサインを出して広域的にでも避難していただくなんていうことまで、これは何も一部、城原川だけの話じゃないと思うんです、下流の干

拓によって形成されたような低平地はみんなそうだと思うんですが、そのぐらいのことまで考えていかないと本当の安全は確保できないのかなと、正直言って、その辺の体制はまだまだできていません。

そういったような防災というか、先ほどの城原川を安全にするに向けての当面のハード面での手順、それからソフト面は、E委員とか、いろいろ言われた課題は多々あります。野越をどう見ていくのか、まちづくりとか地域開発をどう考えていくか、それから上流と下流をどう考えていくか、そういうこともあわせ考えないと、なかなか表面的な議論では解決しないと思います。これはかなり地域の方も巻き込んだ深い議論と言うんでしょうかね、地に足がついた議論なんかでソフトの防災は立ち上げていくという作業が、恐らくこれはもうこの懇談会の枠を超えていると正直思っていますので、別途やらなければならないのではないかというようなことを考えています。

○B委員 今の話題と全然違うんですけども、今日の議題の中で最初に触れられたので、かわづくりプランの報告書の内容の構成についてというのが最初の議題というか、あの中で挙がっていたので、私、その構成がどうも気になって仕方がないんです。資料では30ページです。

何かというと、ここはまず白丸の2段2つが不思議な表現で、「かわづくりプランとして報告書に取りまとめる。報告書は、「城原川未来づくり懇談会」としてとりまとめを行う。」、どっちでまとめられるのかまずわからないというのが一つあるのと、このはじめにから以降の流れを見て、2番の(1)にこの懇談会があるんですが、これはその下の3番と4番の下にあるものじゃないかと思うんですよ。筑後川水系河川整備計画は城原川未来づくり懇談会の中にあるわけじゃないですよ。そうなったときの項立て、この構成というのは、こういう感じでしてしまうと、この懇談会が一番上にあって、その下にこういったことがあるんですよという形になるんですが、実際は、先ほどの最初の議論の中で、具体的に自分たちはこの会議でどこまでというような感じで行われてきている。そして、報告書をするにしても、主体となった懇談会は大体最後の方に来て概要を、そこで構成、組織なんかは言うものじゃないのかなというふうに私は思っているんですが、どうなんですか。これはやっぱり一番最初に来て、その後に大もとの計画というのが来るような報告書の構成というのがあるのかなというのがちょっと気になったんですが。

○事務局 まず最初の30ページの上の枝書きを補足で説明させていただきますと、まず上の「城原川かわづくりプランとして報告書に取りまとめる」と書かせていただいたのは、

ちょっと言葉足らずなんですけれども、今まで懇談会の中で図面を用いたりスライドを使ったりして説明させていただいた中で、かわづくりプランというのは具体的にどういったものになるのかということをお示しできなかつたので。これでも言葉足らずだったんですけれども、ここで書いた目的としては、今までみたいに絵だけではなくて、文章も加えた形で、報告書といいますか、冊子といいますか、文書という形で取りまとめたということを書かせていただいております。

この2段目の「報告書は、「城原川未来づくり懇談会」としてとりまとめを行う。」ということなんですけれども、そのでき上がった冊子といいますか、報告書をどういったクレジットにするか、どういった形にするかというのは、城原川未来づくり懇談会として取りまとめたという形でまとめさせていただきたいということで書かせていただいております。

構成の方ですけれども、今ここの2番目に「かわづくりプランの概要」という形、恐らくこの「かわづくりプランの概要」というタイトルがおかしいのかなと思っておるんです。ここで書きたいのは、今までこの懇談会をつくって、懇談会の前、整備計画ではどういった経緯で城原川の検討がされてきたのかということを紹介したいというふうなことで書かせていただいております。そういった経緯の中で、どうしても懇談会について触れるということになるかと思っておりますので、城原川未来づくり懇談会についてということ、城原川の概要を説明させていただく前に、そもそもどういった検討をされた結果をまとめたものなのかというのを示した方がいいかというふうに思って2番目のところに持ってきております。

ただ、今、B先生が言われたとおり、この「かわづくりプランの概要」という形で説明させていただくならば、現状とか課題とかを紹介した後に、未来づくり懇談会ということについて説明させていただいた方がスマートといいますかね、わかりやすいかと思っておりますので、そこら辺はちょっと検討させていただきたいというふうに思っています。

○座長 もう一つの案としては、その治水対策の概要とか、城原川の現状と課題というところは、この懇談会で議論したことをメインにするのであれば、これらはむしろ付録の方に回してもいいんじゃないかなという気がしているんです。我々がこれを決めたわけじゃないからですね。そういうふうなイメージでしょう。

○事務局 それも一つあるかと思えます。それにつきましては、この3番以降はちょっと中途半端といいますか、宙ぶらりんなところがございますので、付録にするのかも含めま

して再検討させてください。

○座長 そのほか、このかわづくりプランのことについてご質問とかご意見はございませんでしょうか。H委員、何か。

○H委員 かわづくりプランもいいことと思います。それはもう結構なことですが、今の堤防を早く強化というか、安全な堤防にしてから、一緒にしてもいいと思いますが、してもらいたいと思います。城原川の改修工事があったから、私が2度経験というか、私も堤防の横におりまして、野越から越すぐらいのものが今は数時間で来るんですもの。最初のときは6時間ですかね、この間のときは雨が降り始めてから4時間かからんぐらいで野越を越すぐらいに来ました。その野越をどうじゃこうじゃとは私も言えません、下流との関係もありますので。とにかく堤防をもうちょっと強化というか、高くばかりはいかんばってん、ちょっと薄いところもあると思います、漏水するところもありますので、堤防と一緒にしてもらいたいと私は思っています。

○座長 防災のところの項目に、ぜひ「安全な堤防」というのを入れてもらいたいなと私も思っているので、ぜひそれは追加してもらいたいと思っています。

○H委員 お願いします。

○C委員 今後のことになりますので、1つだけD委員に教えていただきたいんですが、城原川の現状の生態系をどのように評価すべきか、あるいは、何かして、さらに高い質の生態系が考えられるのかどうか。整備は全体的には今から30年ぐらいかかると思います。その間の植物の遷移に関することはどういうことが考えられるのか、ちょっと難しいですけど、ご意見でもいいですので、よろしくお願いします。

○D委員 いわゆる生態的な面からいうと、生態的に川らしい川というのは常に変化している川なんです。洪水が起これば土壌が削られて植生ともども流れていってしまう、その後にも回復すると。川にすんでいる生き物というのは、とにかく生まれたときからずっとそういう洪水にあっていますので、それに適応しているものしかそこにすんでいないんですよね。ですから、洪水があるからといって生き物がいなくなるということはまずないです。ですから、洪水があったときにその生き物はどこかに避難していますので、その避難できる場所をちゃんとつくってやっていたら、少々の洪水でもちゃんと耐えていくんです。ですから、本当は砂が流れるというのが一番いいんですけども、これは治水上なかなかマッチできないというところもありますので、その辺は知恵を出しながらつくっていくということになるのかなと思っています。

○座長 ありがとうございます。

予定していた時間が参りました。今日は本当にたくさんのご意見をいただきまして、どうもありがとうございました。

いただいたご意見を踏まえて、次回以降の委員会でこのかわづくりプランというのをまとめていこうと思っております。

それでは、時間になりましたので、進行を事務局の方に返したいと思います。

○事務局 皆様、非常に多くの意見、どうもありがとうございました。

それでは、議事次第の4番目、その他ということで2点ご連絡させていただきたいと思っております。

4. その他

○事務局 1つ目が、資料にA4横の「城原川の懐かしい写真を募集します。」という紙を配らせていただいております。先ほどの説明にありましたとおり、昨年、我々地域を回らせていただくと、公民館等で開催させていただくことが多かったんですけども、そういったところに、城原川の昔の様子が写っている写真とかが幾つかあるところがございました。筑後川におきまして、懐かしい写真ということで、下流、中流、上流と、昨年度、今年度にかけてずっと募集してきて、写真集として、NPOとかと協力しながらまとめているんですけども、城原川につきましては今までこういった写真がなかなかなかったところがございます。ですので、できればこういった城原川の懐かしい写真、これは水害直後の写真という形で例を載せておりますけれども、必ずしも洪水のときだけではなくて、日常的な風景の写真であるとか、そういったものがありましたら募集したいというふうに思っております。皆様でも、もし心当たりがありましたらご連絡いただければというふうに思っております。また、これは神崎市とかと連携しながら、地域の方々に周知していきたいというふうに考えておりますので、よろしくお願いいたします。

もう一点でございますけれども、次回の第5回城原川未来づくり懇談会の開催について、今までどおり日程調整の紙を配らせていただいております。次回は2月中旬をめぐりに考えております。本日いただいた多くの意見を踏まえまして、次回は、先ほど報告書と言いましたけれども、かわづくりプランのたたき台的なものをお示しできればというふうに思っております。

また、座長からもありましたとおり、できる限り事前に皆様にお届けできるように努力してまいりたいと思っております。ただ、我々は作業を急いでおるんですけれども、説明会を年末にやって、今回11日に開催させていただいた中で、事務局側の作業も非常に厳しいというところでご理解いただければというふうに思っています。我々も精いっぱい、できるだけ早くお届けできるように頑張っていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたしたいと思っております。日程調整の紙につきまして、当方でメールアドレスを把握している方々につきましては改めてメールでお送りさせていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

その他としての事務連絡は以上でございます。

5. 閉 会

○事務局 それでは、本日はこれで懇談会を終わらせていただきたいと思います。また、次回懇談会がございますけれども、引き続きご議論のほどをお願いしたいと思います。

今日はどうもありがとうございました。